



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治大正時代の北海道大学におけるスポーツ・体育に関する研究
Author(s)	奈良岡, 健三
Citation	北海道大學教育學部紀要, 17, 17-38
Issue Date	1970-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29050
Type	departmental bulletin paper
File Information	17_P17-38.pdf



明治大正時代の北海道大学における スポーツ・体育に関する研究

Research on the Athletic Activities and Physical Education at
Hokkaido University in Meiji and Taisho Period

奈良岡 健 三
Kenzo NARAOKA

概 要

北海道大学の前身は明治初期、札幌農学校であるが、当時のスポーツ・体育事情を明らかにしようと考えてこの研究に当たった。当時の体育事情を物語るものは遊戯会でその全部を尽くしているといっても過言でない程遊戯会の行われた事実の意義は大きい。

はじめに本研究をすることになったいきさつを述べ、草創期北海道大学（札幌農学校）の教育をスポーツ・体育史の背景として眺めてみたい。

札幌農学校の教育はクラークによって開始されたのであるが、その教育の中では体育が大きな比重を占めていることがうかがえる。

本文は第1章からほとんど全文を遊戯会のことで埋め尽くしているが、それは初めに述べたように北大体育史は遊戯会史といってもよいほどであって、遊戯会に関する資料を集約整理するのが本研究の具体的任務と考えたことによる。

第1回札幌農学校遊戯会は明治11年5月25日北1条の道路上で行なわれた。これは我が国の運動会の藍嚮であった。この遊戯会は大正11年第39回まで続いた。これが第1章である。

第2章では、クラークの教育と体育との関連性について検討を加えたこと。札幌農学校全校を挙げての遊戯会が誕生した内容について見たこと。遊戯会報告の文献記録は名文調で残されていること等について述べた。

第3章では第13回遊戯会以後の中期の遊戯会について述べた。遊戯会記録は北大だけでなく北海道体育史資料としても貴重なものであるが、第15回、16回遊戯会の詳細記録は印刷されて残っている。これは発展期の遊戯会時代を物語るものと見ることができよう。またこの頃の遊戯会は全北海道の規模で行なわれたことがうかがえる。

第5章では遊戯会で行なわれた各種目の記録と活躍した人々を眺めてみた。遊戯会記録は本文後段に一括して掲げることにした。

第6章では遊戯会から陸上競技への移事情況について眺めた。札幌農学校の遊戯会は全札幌市の年中行事として行なわれた時もあったが、時世の波に押し流され、大正11年10月発展的解消と称してオリンピック競技形式の陸上競技に移行してしまった。しかしこれは発展的解消かどうか。札幌市の人口が約8万のとき、遊戯会見物に集まってきた人が1万人もあったというのだから、遊戯会の社会に及ぼした影響も大きいと考えられる。

第7章は総括として遊戯会が我が国の運動会の始まりであり、体育大会の先駆でもあった意義あるものであることを結論的に述べた。

目 次

第1章 序論

- 1 はじめに
- 2 研究のねらいと方法

3 スポーツ・体育の黎明

第2章 創設期札幌農学校の教育と体育

- 1 クラークの教育と体育

- 2 遊戯会の誕生と初期の発展
- 第3章 中期の遊戯会
 - 1 第13回以後の遊戯会
 - 2 遊戯会と音楽
 - 3 遊戯会奨励法について
- 第4章 発展期の遊戯会
 - 1 第15～16回の遊戯会
 - 2 第17～28回の遊戯会

第1章 序 論

1. はじめに

この研究調査は始めからこんな形でまとめようと思っ
てとりかかったわけではなかった。

昭和40年3月恩師故野口源三郎先生から「順天堂大学
体育学部紀要に掲載予定で、日本陸上競技の黎明史の研
究をしているが、それにはどうしても札幌農学校遊戯会
の詳細を知る記録資料が欲しい。北大図書館で調べたい
ので便宜を計らい、協力調査して貰えまいか」というご
依頼があった。そこで図らずも恩師のお手伝いすること
になり、野口先生の指示に従って、図書館・北方文化
研究室で調査を始めてみたのである。いろいろと調査を
進めて行くうちに、

第1 当時の体育・スポーツとしての遊戯会は、現代
のスポーツ・体育の本質をよくとらえて行なわれてい
たのではあるまいか。

第2 遊戯会は当時の学生教育及び一般社会の教育に
も大きな貢献をしていたように見られたこと。

第3 遊戯会を通じて涵み出してくる。100年にも垂ん
とする遠い以前のスポーツと体育が、現代の大学体育
の在り方や理念と同じ位の高水準教育理念で行なわれ
ていたように思われたこと。

第4 当時のスポーツ体育を報ずるいわゆる遊戯会記
録は香り高い文学的表現でなされ、文化的比重がまこ
とに大きいものがあるように感ぜられたこと。

以上のようなことが強く考へられたので、昭和40年11月
末、遊戯会事情を調べあげた資料記録を野口先生に送付
する書翰に「北海道大学の体育史に関して何かまとめた
いので、後日この資料を使わせて頂きたい」旨を申し送
ったところ「それは是非やってみよ」と早速の返事であ
った。

野口先生は筆者の狭い見解で調べ送った資料に手を加
えられたり、さらに研究を積み重ねて「我が国に於ける
初期の陸上競技史に関する研究」(昭41.12月、第1報北

第5章 遊戯会の記録と活躍した人々

- 1 遊戯会の記録と活躍した人々
- 2 遊戯会の規則

第6章 遊戯会から陸上競技への移行

- 1 遊戯会の発展的解消に至る諸事情
- 2 遊戯会関連の雑録

第7章 総 括

北海道大学の巻)を、順天堂大学体育学部紀要第8号に筆
者との連名で掲載された。これがおそらく野口先生最後
の研究論文となったものであろう。

そんないきさつで本稿をまとめることになった次第で
ある。本稿には順大体育学部紀要8号に掲載された資料
と同じものがかなり多く引用してあるのはそのためであ
る。このことは地下に眠られる野口先生もきっとご諒承
下さると思う。謹んで先生の霊に捧げたい。

2. 研究のねらいと方法

前項に述べたものの中にこの研究調査のねらいと方法
を間接的に述べたつもりであるが、本研究のねらいを単
的に言う、現北海道大学の前身である札幌農学校にお
ける遊戯会を回って展開された当時の大学におけるスポ
ーツと体育の事実を明らかにすると同時に、当時のスポ
ーツや体育が一般社会文化に与えた影響度を推察してみ
たい、というのがねらいである。

方法とはつまり北海道大学図書館・北方文化研究室所
蔵の文献資料に基づき調査研究することとした。

3. スポーツ・体育の黎明

本研究のねらいを達成するには何といっても札幌農学
校時代の遊戯会の全貌を明らかにしておく必要がある。

遊戯会とは簡単に言うと今の運動会あるいは体育大会
に当るものであるが、発祥の語源からすると「陸上競技
会」である。札幌農学校の第1回遊戯会は明治11年(18
78)5月25日北1条通り(現北辰病院あたり)の道路上
で行なわれた。これは我が国最初の運動会である。以来
この遊戯会は大正11年第39回まで連綿として継続開催さ
れたのである。遊戯会当日は見物人が多く札幌市のお祭
りの行事でもあった。それだけに市民に与えた影響も大
きかったと推察される。

遊戯会の内容を詳細述べる前に、遊戯会は陸上競技会
を意味したのであるから、遊戯会誕生当時の、我が国及
び諸外国の陸上競技界を概観してみたい。

陸上競技は遠くギリシヤに誕生し、陸上競技を主競技として連綿1200年近くの間隆盛をきわめていた古代オリンピック時代を経、やがて八百長競技やまいた横行という病害に枯らされ、中世紀には一時中断していた。しかし近世に到って各国はいつとはなしに再び陸上競技を行なうようになってきた。英国の選手権大会は1866年（慶応2年）、アメリカの選手権大会は1876年（明治9年）始められた。フランスのクーベルタン男によって創始された近代オリンピック第1回大会は1896年アテネに開催されることになって、一応は世界の陸上競技界は誠に確乎とした足どりで再出発したと見るべきであろう。

さて我が国の陸上競技界はと見ると、[資料1]によると、

『之が我が国に伝えられたのは明治維新の創業整って学制の布かれた頃1870年代であるようであるが明らかでない。しかし明治11年米国アマスト大学から札幌農学校創設に来朝したクラークによって同校に輸入された。

一中略一

当時異彩を放っていたのは明治16年英人ストレンジ、T. W. Strange 指導の下に行なわれた東京帝国大学の運動会であった』

このように内外の陸上競技界を通覧してみると、我が国で最初に陸上競技を行なったのは札幌農学校の遊戯会であるように思われる。それは全米大会開催の2年後で、第1回近代オリンピック開催の実に18年も以前のことであった。日本体育協会創立最初の大事業であった第5回オリンピック予選会が羽田に開催されたときは、どの種目も当時の国際的レベルには遠く及ばなかった。しかしマラソン（25哩）だけは1着の金栗四三（東京高師出）選手が2時間32分45秒で、世界記録より27分も優れたものであり、2着の佐々木政清（小樽水産）選手もまた23分44秒も凌ぐ好記録であった。しかもその佐々木政清選手は、第27回（明治42年）第28回（明治43年）札幌農学校遊戯会招待競走（中学校半英里競走）に2年連続して優勝した21歳の青年であった。今にして思えばストックホルムの第5回オリンピックにこの佐々木選手を金栗選手と共に参加せしめていたら、あるいは日章旗が挙げられていたかも知れなかったと惜しまれる。ともあれ佐々木選手のような優れた選手を育こんでいたなどという一事を見ても遊戯会が、日本陸上競技黎明期に秘れた貢献をしていたことは疑がうべくもない事実であったと思われる。

札幌農学校の遊戯会は確かに日本における陸上競技大会の濫觴であるが、しかし遊戯会と言わば内輪同志の草試合で、外部との接触はほとんどなかったのである。それが外部発展の一つの転機となったのは、芝浦で開催さ

れた第3回極東選手権大会5種競技に鷺山正次郎（札幌農科大学）選手が優勝してからと見られよう。ということは札幌農学校時代の遊戯会からは対外的スポーツ選手は生まれ出なかったし、出てくるはずはなかったことを意味する。これはまた遊戯会はスポーツの大会ではあったが、完全に体育の性格を持っていたことになる。このことは遊戯会について詳細に分析検討して行けば自然に解明されることになるだろう。

第2章 創設期札幌農学校の教育と体育

1. クラークの教育と体育

札幌農学校はどのようにして誕生することになったかを諸文献資料で望見したい。

〔資料2〕
『蝦夷地開拓の始め黒田清隆伯開拓次官として米国に官遊するや深く同国の教育制度の普及せるに感じ上言し明治5年4月開拓使仮学校を芝増上寺に設け開拓使五等出仕荒井郁之助校長たり。調所広丈氏校長に代って明治8年8月仮学校を札幌に移し札幌学校と称す。之れ本校濫觴なり。

黒田伯開拓使長官となり、銳意事に当り最も育英に急なる旨を米国に通じ、遂にマサチューセッツ農学校長ウィリアム・スミス・クラーク氏を招聘して本校の教育に任ぜしむ。クラーク氏命に接するや教師ウィリアム・ホイラー William Wheeler ダビッド・ビー・ペンハロー David P. Penhallaw の二氏を伴ない来り教則を編み科目を作り修業年限を4年とし、卒業生には学位を授け、札幌学校の学生と新たに東京に募集せる者とを本科生たらしめ他に予科を設けて普通学を教授し年限を3年とし札幌学校を改めて札幌農学校となし開校の式を挙ぐ実に明治9年8月14日なり 一中略一

札幌農学校は三個の勢力によりて創立せられたり。一は本校に位置を与えたるにあり、一は黒田伯の本校に形体を与えたるにあり、一はクラーク氏の本校に精神を与えたるにあり』

札幌農学校はかくて誕生したのである。位置を与えたり、形体をつくった黒田伯はともかく、精神を与えたクラークは札幌農学校将来発展の基礎を築いた人と見られるのであるが、どうして来校することになったか、その学生教育の構えと方法を眺めてみたい。

〔資料3〕
北海道大学創設80年史によれば、マサチューセッツ州農科大学を見学した岩倉俱視一行が「学生学術に農場に精励又兵式教練における砲術防習の実況を見て“これだ、日本人自らが食物を造り国土を防衛する所になれ”と感銘してクラークを招聘することとなった次第は諒解

に難くない。

〔資料4〕
クラークの教育は『学生と親しむこと兄弟の如く、先づ苛細なる校則を廃して学生に告げて曰く『我は紳士として諸君を遇す、規則によらざれば身を律する能はざる人となる勿れ』と。また明治9年クラークが赴任当時開校式において述べた抱負は『健康を保ち食慾と性慾を制し従順勤勉の習慣を養い、能う限りの知識と熟練とを獲得せよ、かくて重要な地位に向って準備することとなる』と説いたのである。

重要な地位は常に誠実勤勉にして活動的人物を求めていることを論じたものであり、そのような人の最大の基盤として健康を掲げているのである。この辺にクラークの教育精神の底を流れる体育の重要性認識の度合いのぞき見られるような気がする。

クラークの編成した学課を見ると次のように「練兵」を課していることでも体育重視の一面を読みとることができる。

〔資料5〕
明治9年9月の学課表、() 内週時数

第1年級		1期	2期
代 数 学	(6)	幾何及解析	(6)
物理化及無機化	(6)	有機化学及実験	(8)
英 語	(6)	農 学	(4)
国 語	(4)	英 語	(2)
○練 兵	(2)	演 説 法	(2)
農 学 実 習	(6)	自在画及幾何画法	(3)
		○練 兵	(2)
		農 業 実 習	(6)
第2年級			
植 物 学	(3)	三角術及測量	(6)
◎農芸化学及分析化学	(8)	定 量 分 析	(8)
英 語	(2)	植 物 学	(4)
人体解剖及生理学	(3)	農 学	(2)
演 説 法	(2)	英語及翻譯	(2)
農 学	(4)	用器画及実測製図	(3)
○練 兵	(2)	○練 兵	(2)
農 業 実 習	(6)	農 業 実 習	(3)

以上のように1・2年各期に練兵を2時間づつ課していた。練兵はとりも直さず今の体育に該当する。それは学課編成の最初に「本校の目的開拓に有用なる人材を養成することにある」と強調していることから、人体解剖及び生理学を課していることを見ても、練兵とは体力づくりの言わば体育といった意味であったことが推察できよう。3年級・4年級にも1・2期共1.5時間づつの運動を課している。

練兵と称した兵式体操は演武場竣工の時から正課として行なわれた。森有礼(文部省御用掛)が黒田伯(顧問)

に「札幌農学校の教練は我が国体育の先驅であり、これを模範にして全国に及ぼしたい」という希望があったと。札幌農学校の教練は我が国学校体育の濫觴で、これを模範として大学に推し及ぼして行こう。というあたりまでは練兵は確かに体育であったのである。しかしその後この練兵が昭和になって学校教練となり、専ら軍事力向上に引きずり込まれ、愚かな第二次大戦中には真の体育までもその側に歪められるに至っては、も早や教練は真の体育とは無縁のものとなり終ってしまったのである。

明治11年10月16日には演武場が落成竣工式をあげた。演武場というのは操練室つまり体育館である。これはマサチューセッツ農科大学の Drill Hall (訓練場) を真似て建てたもので、黒田開拓長官臨席の下盛大な竣工式が挙げられた。札幌農学校教育の特色として重視された兵式体操のために置かれたものである。これは建坪113坪2階建てであった。明治14年6月ニューヨーク・ホワード時計店からとりよせた大時計を塔上にそなえて標準時を知らせたもので、「時計台」として親しまれ、明治39年札幌市の有に帰してから歴史的建物として保存されている。

再びクラークの教育について見ると、実習や現実観察を重んじた自然の法則—科学に基づく教育であったことを意味する。これはまた体育における実際活動を重んずる精神とはよく似ており、ある意味では体育そのものといった実例を見ることができる。その一、二をあげる

と、
〔資料6〕
『明治10年8月最初の夏休みに、健康な生徒10名を選んでベンハローが約40日にわたって石狩川を遡り、空知川に入り、さらに芦別川上流人跡未踏の奥地探險を企て、他の者はホイラーに従って余市より長万部に至る道路予定地を測量した。』

これはクラークと彼が伴ない来たった青年教師達の教育内容を示す例と見てよいが、〔資料7〕恵林第13号でクラーク体育教育を見ると、

『休日際に学生等の室内に遊戯しつつあるを見出し時はその手を執って之を郊外に誘い、以て彼等をして如何に郊野を跋涉し如何に新鮮の空気を呼吸すべきかを学ばしめたり。彼は夙に学生に兵式体操を授けんことを主張し居りしが、後許可せらるるに及びて、日本國中先づ第1に兵式体操を授け始めしは我が札幌農学校なりし』という。

彼嘗て体育養成のため、且は學術実地研究のためにとて学生一同に従がへ積雪を冒して手稲山(高2950尺)に遠足を試みたる時古木に珍らしき地衣の生じたるを見これを採らんとするに余りに高かりしかば学生の一人をし

て己れ自ら踏台となって学生に靴のまま上らしめて地衣を取らせたという』

クラークの健康教育体育訓練の一端が紹介されている。

〔資料7〕

クラークは明治10年帰国に際し学生等嚮を併べて之れを島松駅に送る。氏願望の色切なりしが遂に『“Boys be anbitius”を高呼して馬首を回し去りぬ』と全校生徒から惜しまれて去って行ったのであるが、僅か10ヶ月足らずの間に体育教育においても誠に大きい実績を残して行ったと言うことができる。

クラークが去った後はホイーラーが教頭となって跡を継いだがベンハローブルックス等心を合せて教育内容の充実と施設の拡充を図ったので着々成果が挙げられていった。演武場もその所産の一つであったのである。

この後遊戯会を詳細に調べてみるのであるが、遊戯会もまた教育内容充実の重大な役割を果たすものであることが明らかにされるものと思われる。

以上のことをまとめとし、またその後札幌農学校に教師として招聘されたクラークの教育を受け継いだ外人教師の動静を年表にしておこう。

〔資料8〕
札幌農学校沿革年表

△明治9年(1876)

○7月31日 クラーク、教師ウイリヤム・ホイーラー
ダビッド・ベンハロー及び東京で募集した学生11名
と共に札幌着

○8月14日 札幌農学校開校式

△明治10年(1877)

○2月 ウイリヤム・P・ブルックス赴任す

○4月16日 クラーク帰国す

○7月4日 健康学生10名ベンハローに率いられ石狩
川を遡り芦別川上流人跡未踏の奥地を探險し40日に
及ぶ

○9月 第2期生18名着札す

△明治11年(1878)

○5月 ホイーラー教頭となる

○5月25日 第1回遊戯会を開催す。以後毎年行なう
例とする。

○10月16日 演武場竣工式

○11月 陸軍小尉加藤重住、兵式体操を担当する
歩兵操練の始め

△明治12年(1879)

○1月 セシルH・ピーボディー着任す

○12月 ホイーラー帰国す

△明治13年(1880)

○8月 ベンハロー満期解職

△明治14年(1881)

○2月 調所校長退き、森源三校長兼務す

○7月 ビーボディー満期解職

○9月 予備科修業年限4ヶ年とする

△明治15年(1882)

○2月 開拓使廃せられ本校農務省所属となる

△明治18年(1885)

ホーレス・イー・ストックブリッジ氏来
任

△明治19年

○2月20日 本校北海道庁に移管さる

○3月8日 佐藤昌介教授兼幹事校長職務代理

○10月 ブルックス帰国す(これで開校当時から
在職した外人教師その跡を断つ)

△明治22年(1889)

兵学科を置き屯田士官の養成をなす

△明治25年(1892)

兵学科募集を停止する

△明治28年(1895)

文部省直轄となる

2. 遊戯会の誕生とその発展

遊戯会の語源を考究してみよう。この語源は Athletic meeting からきていることが次のことで明らかである。

〔資料9〕

『学生生徒の体格を強壯にし、活潑の氣風を発達させるの目的を以て明治11年創立され各種運動競技を行ふ。所見戯に等しと雖も、之亦一の運動会なり。且之こそ我日本に於て“Athletic sports”の始めなるに至りては我校の大に中外に誇る所以なり。之に命名するに原名“Athletic meeting”の訳語遊戯会を以てす』

アスレティック・ミーティングを遊戯会と訳したのであるがこれは無論現今の陸上競技会のことである。

第1回遊戯会については、遊戯会に関する記録として、どんな資料にもとり上げられているのが見られるが、何れの記事もその詳細を系統的に記録しているのを見られないのが遺憾である。しかし次のような諸資料によればかなり明瞭にすることができよう。

〔資料10〕

『体育方面では遊戯会があった。明治11年春学校前の道路で、外人教師の案になる種目で行なったのを最初に、毎年春学生の手によって挙行せられた。』

〔資料11〕

『明治11年札幌農学校時代にマサチューセッツ大学よりクラーク先生と同道し来れる外人の発起により、アスレチック・スポーツの名を以て第1回運動会を北1条通り(北辰病院前)に於て行はれ、当時の種目競走(100碼、150碼、200碼、何れも電奔百碼、電奔二百碼といへる由、半哩・1哩競走、巾飛、棒高飛、サックレース・ポテトレース・兵装レース)など亜米利加にて当時行は

れたる種目をそのまま行いたるものにして爾来以上の種目は毎年行はれレコードをとり技を競ひたるものならん。第2回は翌年現在の停車場通りにて行ひ其後力芸会と称し後運動会と命名せり』

〔資料12〕
『第1回のアスレチックスポーツは現在の北1条北辰病院前から庁立図書館の辺までで明治11年5月に盛大に開催された。』

種目

トラック 電奔100碼、電奔150碼、電奔200碼、4分の1哩、半哩、1哩

フィールド 疾走巾飛、疾走高飛、棒高飛、2人3脚片脚競走、サック競走、ポテトレース、兵装レース

以上のように第1回遊戯会は明治11年5月25日、北1条通りの道路上で行われた。これはクラークが伴ない来った W. wheeler と D. Penhallaw の2人の提唱によることが明らかで、その種目はトラック6種目、フィールドが8種目で短距離競走を電奔と称し、碼・哩制で行なったことから容易に推察せられるところである。

種目はアメリカで行なわれていた陸上競技種目をそのまま採用したものと思われる。フィールドでは跳躍競技が主で投てき競技はなかった。走巾跳を疾走幅飛と称し、^①跳、は全部^②飛、であった。

北大陸上競技部報第1号、記念号、には^③札幌の名物となった遊戯会は単にこうした走許りでなく射的をやり或は又綱引きに旗取りに、捕豚等全校こぞって5月の1日を楽しみ、余興に飲酒に一宵を徹した。と記載している。第1回、第2回頃の名選手は、佐藤昌介男、宮部金吾博士・橋本左五郎博士等で、^④米国ハーバード大学で鍛へた宮部博士は当時のナイス・ランナーであった。とそれぞれの学界で全国的世界的に名をなした人々が遊戯会で名選手として活躍したことが記録されている。

^⑤遊戯会種目は回を重ねる毎に新種目が加えられたり廃止されたり変遷をたどった。

『初期の遊戯会は大通り若しくは停車場通りで行われたが決して交通の妨害にはならなかった。』とあるが、^⑥後年往来繁くなるにつれ、寄宿舎後方の広場で開催し、特定常置の競技場で行なわれたものでなかったのである。

札幌農学校の遊戯会はこうして誕生し、中間3～4回休会したことがあったが、毎年5月の第2土曜日に開催されることが通例となっていた。

ついでに遊戯会と当時の文化的サークル活動あるいはその団体等との関連性を拾ってみるのも興味深いものがある。

明治34年遊戯会は学芸会と合併して『文武会』をつくった。そして更に大正10年を転換期として、以後は陸上

競技そのものだけに専心する北海道大学陸上競技部となつて発展を続けた。これ等の事情は^⑦文武会紹介、に大意次のように記されている。

^⑧文武会の創立は明治34年4月19日で学芸会・遊戯会の合併によって成立した。淵源となった学芸会は明治10年札幌農学校第1期生等が開議社（Nowlrigge を Openeする意）を設けて修養したのに発している。遊戯会は明治11年体育懇親会を図つたのに端を発している。』

明治11年既に^⑨体育、という言葉が使用されていたのは珍らしいことである。遊戯会に関して好資料を残してくれた「蕙林」（蕙は香り草の意—けいりん）は学芸会が発行したものである。遊戯会と文芸誌や文化活動団体との関係事情を要約すると次のようになる。

開議社に次いで文友会（明治23年4月、会員25名）が誕生し、翌明治24年尚志会（会員25名）が組織された。文友会は文章練磨、尚志会は文芸知能の啓発を目的とした。この二つが明治25年融合して学芸会の誕生を見たのである。学芸会は明治25年5月機関紙「蕙林」を発行した。創刊号券頭に『茫々6918万里河維れ流れ、山維れ登え風琴々露点々の処鹿鳴呦々として響き、蓬茂りて草盛なるの辺熊跡斑々として横はる—云々』という名文は今に有名である。この蕙林が札幌農学校時代の北海道の事情や学生生活を偲ぶ好個の文獻で、遊戯会の記事もしばしばこのような名文調で掲載されている。明治34年文武会になってから^⑩文武会雑誌、というまことに非文藝的な名称に変わり遊戯会の記事もこれに掲載されることになったのである。しかし文武会雑誌にはこの調査で引用できるような記事は殆んどなかった。

第3章 中期の遊戯会

1. 第13回以後の遊戯会

初期の遊戯会ではその全貌を伝える記録資料はあまり残っていない。相当に詳しく記録に留められ出したのは第13回遊戯会頃からのようである。第13回遊戯会の模様を恵迪寮史・北海道大学陸上競技部報1で見ると次のようになる。

第13回遊戯会、明治26年5月20日後庭に催す。

競技順	競技種目	記録	一等	二等	三等
第1	疾走幅飛	1丈8尺3寸	遠武 勇熊	梁田 斌	草場 栄喜
第2	4分ノ1哩競走	A 69秒5	牧野 環		
		B 69秒25	松村 松年		
		C 68秒0	草場 栄喜		
第3	200碼電奔	A 24秒25	遠武 勇熊	松村 松年	
		B 25秒0	餅原正之進	牧野 環	
第5	障害物競走	55秒5	川江 秀夫		
第8	鉄槌抛	53尺8寸	奈良 浄		
第9	兵装1/4英里競走	80秒	松村 松年	加藤 忠治	

第10 疾走高飛	4尺7寸	平沢 真 梁田 斌
第12◎疾走棒高飛	9尺	佐藤 昌 須田金之助
第24 優勝者英里競走	66秒5	松村 松年
(チャンピオンレース)		

鉄槌抛と棒高飛はこの回から新たに加えられたものであるが、鉄槌には木の柄がついたもので、棒高飛のバーは木製でなく縄を張ったものである。鉄槌抛は投擲技として最初の種目であった。

この遊戯会で授与した賞牌は計5個で、金牌は4分ノ1哩競走優勝者牧野環氏と半哩優勝者須田金之助氏に与えられている。銀牌は3個である、疾走巾飛の遠武勇熊氏、鉄槌抛奈良浄氏、百碼電奔遠武勇熊氏である。

これまでの遊戯会の成績記録は正確であったとは考えられない。蕙林6号(明26.6月)の「米国人遊戯会報告」によれば実に驚くべし、

半英里競走	時間	1分50秒余
百碼電奔	〃	10秒
4分の1英里競走	〃	40秒余
鉄槌抛	〃	138尺余
疾走巾飛	記録	2丈余
疾走高飛		5尺6寸余

というものである。札幌農学校における遊戯会の記録に比べて、アメリカの優れた記録に驚いた様子がよくわかるが、その記録は大ざっぱで4分の1哩競走が40秒余、半哩が1分50秒余と驚く程不正確なものである。ほとんどの記録に余という字を付けているこれは記録に対する感覚が鈍く乏しく、当時の遊戯会記録がどんな態度で扱われ考へられていたかを表わしている。

〔資料18〕
第14回遊戯会について蕙林9号には次のように報道されている。

『明治26年10月28日第14回遊戯会を円山池辺水清く気朗かなるの所に催ふす。』

例年の遊戯会は春5月下旬後庭で開催していたのであるが、この年は秋季大会である。

『忽ちにして数町の外軽装淡服の少年一歩一喘人を望んで疾走し来れるあり、実に本会競技者の一隊なり抑此競技たる今回特に計画したる本校より円山池畔に至る1里許の競走にして而かも本校創設以来の壮挙にして吾人の心担を壮ならしむるに足る物有——』とこの回から始められたマラソン競走(約4km)戦況報告である。『1歩1喘』と苦しうに走っている形容があるが、ちょちょこ練習したのみでは長距離走法である『2呼2吸』の4歩の定常状態で走れるものは居らなかったようである。決勝線に到着勝敗決した様子の報告がまた面白い。

『斯くして先登第1日章旗飄々たるの凱旋門に達したるもの之を森氏となす、次て先登第2たるもの之を相馬氏とす。一は是佐々木信綱、他は是梶原景季宇治川に先

陣を争ふ、二氏の得意思ふべし、之に続くもの川江君・土肥君とす共に山岳も崩れんばかりの拍手喝采中に到着す』とある。宇治川の先陣争いまで引き合いに出し、山も崩れるような拍手で迎えられた当時の平和でノンビリした情景まことに『隔世の感』とはこのことである。それからいろいろな種目の競技が行なわれ、漸やく夕方になった。遊戯会終了頃の報道文もまた流麗である。

『——暮色は霏然として山間の美を蔽い人影漸く其微を致す然りと雖も北海男児何ぞ暮軍の門に旗降する者ならむや、乃ち予め携へたる高張燈灯を点じ暗黒境内一光明を現する下競技者に授与す、時に井上氏後殿の賞として小草履一を得是に至て喝采殆んど池水を震動す嗚呼氏牛後と為て猶此賞あり、蘇秦若し地下に之を聞かば夫れ或は流涕の滲々を致すならむか——云々』

閉会式は高張燈灯をともし黄昏過ぎにまで及び、そしてラスト賞があり、それがまたユーモア溢れる名文で報道されている。古人の心情の大らかさ、ゆとり、学生生活の豊かさと余裕正に体育の真骨頂我が意を得たものがある。昔を今に……などと言うつもりはないが、古人の人間性——近代文明に生きる現代青年との差は、次元すら全く異っていることを痛感させるものがある。

閉会式が終り後片付けなどして役員等も帰る頃がまた美しい。

〔資料19〕
『既にして夕陽西に没し、晚鴉帰する所明月漸く上らんとす。一同乃ち帰る』

2. 遊戯会と音楽

〔資料20〕
『遊戯会と音楽という題で「我楽」氏は蕙林8号に障害競走を説明する一文を掲載している。

『鐘声鏘々として響き一群の青年競技場に現はれ来る——中略——勇氣凜然顔面淡紅を帯びて炯々たる两眼は一に勝敗線に注ぐ、己にして合図者の号砲轟然空氣を破る、忽ちにして大河の決するが如く迅風の廻るが如く一斉に疾駆して電火の如く脱し陽炎の如く閃き躍て柵を越ゆる者、伏して網を潜るもの千態万状技愈々出で奇益々変し遂に勝敗線に近づく幾千觀者拍て呼び地を踏で叫び天地動きて耳為に聳す。

須臾にして奏楽の起るあり鬨々たる笛疎々たる鼓迎ふるが如く励ますが如く和するが如く六呂律に応じて余音嫋々万容忽ち声を治めて眼光共に審判官の席場に注ぐ即ち勝敗の決したるなり——中略——』

何かの催し物に必ず音楽をもって雰囲気醸し出す筆法は今も変りがないが、遊戯会がその源をなしていたと思われるのは嬉しいことである。

前段に出ている短距離競走のスピードの表現やスポーツ用語にも面白いものがある。電火や陽炎にたとえ、決

勝線を勝敗線と言ひ、種目は種名であり、決勝審判員は審判官である。遊戯会の運営は誠に気品に富んだものであったのが次にうたわれている。

『実に此の会や本道運動会の模範たるべきものにして壮にして烈ならず、華にして浮ならず、気ありて乱れざるは遠く他校の及ばざる所にして世人の眼を集め意を注ぐは豈に夫れ偶然ならんや』

遊戯会中の音楽にはいろいろと美点があり感激があることを次のように述べている。

『褒賞を得て帰るに当り忽ち奉迎の音楽を聞く、嗚呼快絶倫絶筆を以て記すべからず、弁を以て述ぶる能はず実に終生忘るべからざるの感を起さん。』

遊戯会と音楽との調和から醸成する深い感激は学生の高い情操陶冶に得難い機会となったことであろう。雑音に近いものが多い今の音楽とは違った刺激で感銘を与えたようである。

『音楽の遊戯会における甲は厳氷の如く乙は暖炉の如く相与に離るべからざるものと謂ふべき也。』

こうして第14回以後は音楽をとり入れることが実行に移され、第15回遊戯会会場図に審判席の隣りに音楽隊席が見出される。

3. 遊戯奨励法に就て

遊戯会の振興奨励については多くの人々から関心が寄せられ、いろいろな意見が出されていたらしいが^{〔資料21〕}蕙林10号にWH生の寄せた一文はその後の遊戯会にも採用せられ、見るべき奨励法と思われる。

「遊戯奨励法に就て」

- 一 遊戯の難易により等級を附すること
- 一 賞品等数は競技者の多少により増減するべき筈なれども其標準を定むべき事
- 一 第一着と雖も不合格規定標準以下なる時は賞を廃すること
- 一 賞与品の価格は等級により相違あるべき事
- 一 遊戯に点数を附し競技者を制限すべき事
- 一 賞牌を受くるものは拾壹回以後該遊戯の「タイム」平均と同一又は以上なるものに限る事
- 一 遊戯会の不合格標準を定むべき事
- 一 競技者の多少を定め賞与を増減すべき標準を定むる事

以上のように遊戯会奨励条項を掲げた後、第11回遊戯会以後次第に質が低下してきた例を挙げ、4分ノ1哩など来観人にも劣る恥かしい成績であったことなどを指摘し、結局これは参加申込をしておきながら練習不足であることを手きびしくきめつけ、こんな不振をなくするに

は表1に掲げるような奨励法によるべきことを強調したものである。

表1 遊戯会競技等級表 案

遊戯等級	競技名称	賞与価格之割合	賞与之数	賞牌	競技点数	競技者最多数	競技者最少数	不合格規定
1等	半哩競走	5.0	4	金牌	5点	10人	2人	160秒以上 100秒以上
2等	電奔百碼	3.5	3	銀牌	3.5	15	3	12秒以上 20秒以上
2等	電奔150碼	3.5	3	銀牌	3.5	15	3	25秒以上 70秒以上
2等	電奔200碼	3.5	3	銀牌	3.5	15	3	25秒以上 70秒以上
2等	4分の1哩競走	3.5	3	銀牌	3.5	15	3	25秒以上 70秒以上
3等	疾走幅飛	2.5	3	銅牌	2.5	10	2	16英尺以下 4尺5寸以下
3等	疾走高飛	2.5	3	銅牌	2.5	10	2	16英尺以下 4尺5寸以下
3等	棒高飛	2.5	3	銅牌	2.5	10	2	8尺以下 50尺以下
3等	棒高飛	2.5	3	銅牌	2.5	10	2	8尺以下 50尺以下
無等	優勝者競走	4.0	3	特別牌	無	1等2等遊戯1着に限	2	
4等	障害物競走	1.5	2-3	無	1.5	無制限 10組	5組	競技者多数の時抽籤にて減す
4等	三脚競走	1.5	2-3	無	1.0	無制限 10組	5組	
4等	片脚競走	1.0	2	無	1.0	15人	5人	
4等	背面競走	1.0	2	無	1.0	15人	5人	
4等	蒙袋競走	1.0	2	無	1.0	15人	5人	
4等	蒙袋競走	1.0	2	無	1.0	15人	5人	
4等	連棚脱桶競走	1.0	2	無	1.0	10人	5人	
4等	回組競走	1.0	2	無	1.0	10人	5人	
無等	慰安競走	1.0	2	無	1.0	1等及2等遊戯において賞を得るもの	5	
等外	余興各種	無	無	無	無	無制限	9	備考 1等2等3等の遊戯は本科予科合併して標準を立てたり不合格者は本科・予科別々に競技すべし前回到合格点以上を得たるものは事由なくして次回の諸競技を廃止することを得ず
	その他難易により相当の等級を付す			競技者の数に限り増減	第1着1人に付15点より増し			

第4章 発展期の遊戯会

以上は第14回遊戯会に至る諸事情であるが、系統的な資料や態系づけられた記録ではなかった。しかし第15回の頃から数年間は略々完全な記録が残されている。

1. 第15～16回以後の遊戯会

第15回以後の遊戯会及関連する諸事情

第15回遊戯会は明治29年（1896）5月16日本校後庭で開催された。丁度第1回近代オリンピック大会がアテネに開かれた年である。この回の全貌は第15回遊戯会報告——明治11年創立——札幌農学校遊戯会と題したパン

明治大正時代の北海道大学におけるスポーツ・体育に関する研究

フレットにされている。

巻頭目次が第15回遊戯会目録となっており

第15回遊戯会紀事 一丁

審判者並ニ競技順序及競技者姓名 五丁

受賞者一覧 十六丁

会場略図 二十一丁

明治29年5月16日気象 二十二丁

第15回遊戯会会計報告 二十三丁

寄贈品目及寄贈者姓名 三十六丁

というもので一丁目の遊戯会紀事には、

一 明治29年3月25日役員会ヲ寄宿舎内ニ開キ左ノ議決ヲナス

競技上本予科ノ別ヲ廃スルコト

又執務上ノ分担 会計係(2名)会場係(3名)遊戯係(3名)器械係(3名)

一 明治29年5月16日春季遊戯会ヲ本校後庭ニ開ク午前9時ニ始マリ競技28番ヲ演シ午後6時ニ終ル、此日天気快晴ナリシモ風伯威ヲ逞フシ黄塵頻ニ起リテ前年後庭ニ厩舎設立以来運動場の荒蕪セント共ニ遊戯ヲ妨ケンハ甚遺憾トスルトコロナリシ来賓ハ北海道庁官吏屯田将校裁判官其他諸官衙高等官諸学校長教諭会社役員札幌農学校同窓会員同職員及市中ノ紳士淑女等ニシテ無慮千ヲ越ヘ席上立錫ノ地ナク来観者ハ之ニ倍シテ埒欄為ニ崩レ実ニ近來未曾有ノ盛況ヲ呈セリ

審判者合図者等の臨時役割として審判長が佐藤昌介(後の総長)審判員 新渡戸稲造(後の一高校長)宮部金吾(わが国植物学の泰斗)南鷹次郎(後総長)等計12名となっており、役員審判員の顔触れではこんな豪華な学者役員のスポーツ大会は珍らしい。審判補助者4名合図者2名、接待係8名場内整理係10名それぞれ学生役員が挙げられている。

種目や入賞者記録については第2表に掲げる。遊戯会における賞品は当時どのようなものがあつたか、そしてどのように調達されていたかを見ると次のようになって

第15回遊戯会寄贈品(姓名略)

金 牌	5 個	同窓会員他 2 名より
銀 牌	2 個	2 名より
縄	百把	(競技場作りに使用したものであろう)
北海道寺院沿革誌	2 部	1 名
夏短靴	1 足	1 名
置時計	3 個	3 名より
紅白餅	100	
手提鞆	6 個	教職員夫人 6 名から各 1 個づつ

毛 布	1 枚
ハンカチーフ	10 打 3 人より
莫大小	1 組
襪 衣	5 枚 3 人より
手 牒	1 打
反 物	1 反

以上

学芸会雑誌第20号(明治29年6月20日発行) P.83, によると第15回遊戯会報告文は次のように記されている。

〔注〕 憲林は19号で終つて、学芸会雑誌は20号から始まつている。

◇5月16日(土)本校後庭に開かれぬ朝来は風凄じく砂煙りを揚げ折しも近在の野火猛に黒煙を送りかくては来観者の数もいとど僅かならんと思はれしが例刻に至りて人の黒山を築き立錫の地なかりし程なりき

例年の如く招待席各学校席等の設けあり仰けば各国の旗空に飄り俯しては草青く色どり審判者厳しく控へ遊戯者赤き白き扮装に身を固め場内整理の仮警官帯剣にて巡り歩くなど例年のこととは言へど目立ちて見えぬ云々」

当時の荒蕪たる札幌郊外の野火燃える原野、牧草地に荒縄など張りめぐらした即席競技場、フロックコートに厳然と控えた審判官、着飾った淑女老若男女が十重二十重にとり囲んで遊戯会が行なわれていたのである。

第16回遊戯会もその全貌が第15回と同じ形式と内容のパンフレットに残されている。まづ会頭及び幹事5名を選挙で決定し、臨時委員(学生)2名を追加したこと、役員会事務所を寄宿舎内の一室に設け執務係分担を定めたことなどが記され、遊戯会概略を次のように報じている。

〔資料22〕

第16回遊戯会は明治30年5月15日後庭に開かれ、10時に始まり、競技32番を演じ午後6時に終る。天気は晴朗ならざりしも風無く雲行静かで絶好の大会日和であつたことなどが記されている。来賓がまた豪華なもので、北海道庁長官始め紳士淑女数千人、来観者も従来の2倍程も来て今までにない盛況を呈したとある。

第16回遊戯会報告で注目されるのは、戦況報道で、特に半哩と1哩における平山八十五郎と広瀬潤平両雄の大接戦は遊戯会史上でも屈指の名勝負と言うべく、当時の模様を遊戯会記録で見ると次のようになる。先づ前予想を。

〔資料23〕

『運動会なる語さへ未だ吾国にはあらぬ明治11年初めて創設されし吾遊戯会も今は回を重ねる事十六、去る5月15日を以て吾校後庭に於て開かれぬ幹事諸氏は一月許前より用意をささき怠りなく或は中島公園地内の馬場に至るもの或は農園の牧草地に行く者其他種々様々已れ

天晴れ勝者の月桂冠を頂かてやはと床中夢驚かされしもの幾何ぞや、殊に本年はかつて東京に在りし時スポーツマンの名江戸八百八町に轟かせし平山八十五郎氏の今年こそは一つ腕いや足を鍛へて昔の手並を顯はしまんまと今迄勝誇りし者共の荒胆引き抜き呉れんと意気込居るとの噂とりどりそれにまた昨年の遊戯会にて目ざましき働きして牧野梁田など言う面々をして隠然一敵国の思あらしめし畑治作氏の一生懸命に鍛練し居るとの咄しもあり——』中略

競技実況では

『半英里競走となりぬ20人許りの健児場内に顯はれ合図の砲声一発にて走せ出てぬ、見る間に2回を廻りて繩内に入りたる時は平山八十五郎氏先鋒にて衆をして流石に平山氏なりと思はしめたる時忽ち後方より一人の致敵顯はれ来れり是れ誰とかなす広瀬潤平氏なり、勇奮一番遂に決勝点近き処にて平山氏を抜き一等賞(金牌)を得平山氏二等となり、三等平沢真氏なり、広瀬氏は2分39秒を以て決勝点に達したるなり』——中略——

〔資料24〕

『次は最後にして晴れの戦ひたる一英里競走なり号砲一発余人の遊戯者は走り出せり吾こそ一等と急きものあり、前途未だ長しと悠々緩々たるあり2回廻り3回廻りし頃は遊戯者の中にてモー駄目だと途中にて止むるものも多かりき、4回廻り5回目になりて皆大低は呼吸急はしくなりて足元も何となく慄しくなりしも、平山氏の如きは未だ呼吸迫らず足並も乱れず尚余裕綽々たるの観ありて衆をして東都にありし当年の名声決して虚ならずと感嘆に堪へざらしめぬ、5回目の時には平山氏来賓席の前面頃より衆を抜きて一人及ぶものなき有様なりしにまたもや後方より広瀬潤平氏走り来り平山氏に及ぶに垂んとし衆をして思はず歓声を挙げしめぬ而して平山氏も流石に剛の者如何でか屈せん必死の力を出して走り兩人殆んど肩を怒らして見たり決勝点に至りし時は殆んど相並んで入り平山氏は早しいや広瀬氏の足は先に決勝線内に入れりと少時は議論起りたりしも、正当なる審判によれば平山氏僅かに早く入りりとて一等賞(金牌)は平山氏に帰せり』——後略——

〔資料25〕

東都で活躍したという平山八十五郎氏について資料で調べて見ると、明治27年第8期生として4年間の予科を終了、同年農学部専修本科1年21名中に平山八十五郎(出身・東京)の名があり、第16回遊戯会で活躍した時は本科2年に当る。他の資料で見ると明治31年7月農学科卒業逝去者の中に名が列ねられていた。何年に死亡したかは確かな記録を見出せなかった。彼が「東都で鳴らした、事実も記録もここでは知る術もないが、予科入学以前東京で、日本の陸上競技黎明史に残るような活躍をしたに違いないことが想像される。」

〔資料27〕

その後の彼の消息について「部報」1に部長松村松年氏(第13回遊戯会種目優勝)は次のように述べている。

『平山八十五郎は長距離競走に得意であった。彼は関西でも関東でも有名な選手であった。今日で言うならマラソンの優勝者であった。その後平山君は米国で客死したが、その当時解剖した大学の教授は、この平山君は日本に居た時人力車でも曳いたことのあるものと見え、その心臓は頗る発達している。といったそうだ。』

彼の走り方を横より見ると殆んど両方の足が伸びており恰も一直線のように見えた、その当時は誰もが彼に歯が立たなかった。」

と言っている、脚が一直線のように伸びてフォームの良かったことが分ると同時に彼の心臓はいわゆるスポーツ心臓と言われるように大きく発達していたことがよくわかる。同時に米国で客死した時解剖に当たった教授の言はまことによく日本の体育未開発事情を言い表わしているように思われる。彼を「人力車夫」でもしたものと見たのであるが、当時日本がスポーツ心臓だなどということが予想できるようにスポーツ文化が進んでいなかったことを言い表わしているとも見られる。

遊戯会が現今の公式陸上競技大会のように当時は相当権威ある大会であることを物語るひとつの証拠としては、第15、16回遊戯会当日の天候気象観測結果がある。第2表がそれである。

第2表 第15回、第16回遊戯会天候気象観測

第15回 明29.5/16 第16回 明30.5/15

時刻	気 温		気 圧		風 向		風 速 力		天 気	
	第15回	第16回	15	16	15	16	15	16	15	16
午前8時	15.7	10.5	55.9	56.9	南東	東	5.2	2.1	快晴	曇天
9時	18.6	12.2	54.4	56.6	南東	東	7.9	3.4	"	"
10時	20.1	12.7	54.4	56.1	南東	東	9.7	2.9		
11時	20.9	13.9	53.8	55.9	南東	東	9.3	2.3		
12時	20.6	14.6	53.8	55.4	南東	東	13.7	3.1		
午後1時	20.8	15.1	53.8	55.1	南	北	13.9	5.7		
2時	21.0	14.1	53.5	54.8	南	北	12.4	5.0	快晴	曇天
3時	20.9	13.2	53.3	54.6	南東	北	11.6	5.3		
4時	20.6	11.9	53.4	54.3	南東	北	11.6	5.3		
5時	18.0	11.1	53.5	54.2		北西				
6時	17.0	10.4	53.8	53.7			7.3	2.2		

〔注〕 15回、16回遊戯会報告より(原本では別々)

遊戯会は科学的準備の配慮も払われて行なわれていたと見てもよからう。

遊戯会の賞牌賞品は第16回遊戯会でも寄贈せられ、それぞれ入賞者に与えられたのである。金牌3・銀牌2・

編上靴、短靴各1、ハンカチ・靴下・雑品等は第15回の際も同様であったが、歯磨粉・書籍7冊というのが変わっていた。しかし今日の運動会賞品は全く当時の遊戯会賞品そのままである。経費がどれ位かかっていたかを第16回遊戯会会計報告で見ると

寄附金合計	347円26銭5厘也
総支出	294円25銭8厘也
差引残金	53円00銭7厘也

支出の主なものとは報告書4000部33円10銭、賞品賞牌購入費115円45銭8厘、遊戯道具費28円15銭5厘など。貨幣価値から現代に換算して約70万円位に相当すると見ると多大な経費がかけられたものであることが分かる。さらに学生教職員等の数から考え、比重は20:1とあれば、遊戯会の占める比重はさらにずっしりと重くなり、遊戯会が如何に重要に扱われたかが推察される。

2. 第17回～第28回遊戯会

第17回～第28回遊戯会における勝敗と記録

今日の陸上競技界においては勝敗と同時に記録の優劣に大きな関心が持たれている。ところが札幌農学校の遊戯会においては記録よりむしろ誰と誰がどのように戦って誰が勝ったかということに遊戯会報道の主眼が置かれている観がある。『記録軽視、勝敗尊重。には二つの理由があるように思われる。その1は競技場が整備されていない凹凸の激しい牧草地なので記録を云々してもはじまらないこと。その2は公式対外試合がほとんどなく年一回の遊戯会だけで他と比較することが不可能であったことによるものであろう。』

何れにしても第17回遊戯会以後の情景を点綴してみると、その間の事情が判然となるだろう。同時にその当時北海道の陸上競技会や体育大会がどんな歩みを続けてきたかもわかるだろう。

『春風吹き起りて同人が寤寐にだも忘るる能はざりし
 我校の大祭日なる遊戯会は5月14日をもって校庭藁草離々たる処に開かれぬ。演武場上勇ましき鐘声と共に腕を扼し脾肉を嘆ずるの土は雲の如く萃れり。』——中略

第17回遊戯会記録に始めて会場を後庭から校庭と言うようになったのは一つの注目される点である。

『二百碼電奔は競走の花なり選手たらんものはこの難関を破らざるべからず狼の先登第一なりしも失転して他をして空しく名を為さしめしは遺憾千万』

遊戯会中しばしば『転倒』の記録が見られる。牧草地であるからであらうし、記録の良からうはずはない。二百碼電奔に対し百碼電奔は『百碼電奔は早業中の早業なり脱兎か飛燕か天馬空を征くが如しと見る間に云々。』と形容している。

第17回遊戯会からハンデキャップ付というのが見られだしている。第1の疾走巾飛では梁田颯が8寸のハンデー付き、第2の鉄槌抛でも奈良浄は8寸ハンデーを背負っていたが『大仏のような奈良の一搏にしてやられた』とある。百碼電奔の牧野環にもハンデーが付いていたが、牧野は12秒0で優勝している。ハンデーキャップ付はずっと続くが、ハンデーをどうして誰が決めるかを知る記録は見当らない。しかし次の一文はハンデーキャップのある側面を説明してくれる。

〔資料29〕

『第1 疾走巾飛

1等 梁 田 颯 19尺7寸 (5 m97)

2等 佐藤 昌 18尺1寸 (5 m48)

3等 狛 鉄之助 18尺7寸 (5 m42)

(ハンデー8寸) (17尺9寸—5 m42)

昨年に比すれば何れも成績よく昨年は1等狛16尺5寸なりしも本年は1等梁田颯にして実に3尺2寸の進歩なり。2等狛18尺7寸なるもハンデーキャップ8寸を引かれ17尺9寸を以て3等となり、2等は佐藤の有に帰せり』

ハンデーキャップ制度のねらいは勝利の榮譽を均等に分ち与えようとしたところにある。けれども競技技術の向上を妨げ、記録の進歩には著しくブレーキとなったと見られる。

『二百碼電奔、牧野・狛・梁田・根岸・森谷・柳川の六氏「アテンション」の令下一発の銃声に連て我後れじと走り出でし時は誰勝る様にも見えざりしが、見る間に根岸は偉太天の如く独り真先に擡てたり、牧野老将鐵面一番物々しやの声諸共抜かうとすれど腰腕の贅肉意の如くならず云々』

短距離常将の牧野環氏が衰えを見せて敗退した様子を酷評した記事であるが、13～16回頃までの遊戯会報告文に見られた華麗なまでの文学的表現が一転してこのような報道文が出て来ているのは、遊戯会のマンネリズムと衰退の萌芽を見るような気がして悲しいことである。スターターが「アテンション」と最初の合図を送り、次に村田銃をドーンとやって出発させたことについては後述しよう。

〔資料30〕

『当時の剛者奈良狛佐藤の諸氏既にあらずアンパイヤー星野君の内職遂に銀牌を得たり。——中略——後庭に蝸集せる者は無慮一万人以上に及びたれば会場の雑踏言はん方なく——』

役員をしながらか競技に出場しているところは昔も今も同じであること、遊戯会の観衆1万人を越える見込、当時札幌の人口が10万位と推察すると、観衆と市の人口比は1:10となる。遊戯会は札幌市の一大行事であった第20回遊戯会は札幌農学校創立25周年記念祝賀会と同日、

明治34年5月14日に行なわれた。

『前略——4月下旬事務所を寄宿舎内の一室に置き万端の準備をなし又衛生法なるものを掲示して競技者の奨励をし——中略——午後一時より開会することなれば遊戯の数を16、に減じ、賞品は記念となるべきものとて内外有名の書籍を以てし、賞牌の如きも最も記念たるべき意匠を凝らし表面には『ウィリヤムクラーク』氏の肖像を表はし、裏面には創立25年記念祝賀遊戯会と刻せり——略——』

第20回遊戯会は25周年祝賀会に引き続いて行なわれこの記録は創立25周年祝賀会報告書にだけしか見られなかった。部報1でも恵迪寮史でもこの報告書を見落しているらしく第20回遊戯会の記録はないと記されている。ここで知りたいのは遊戯会の「衛生法」なるものであるが、推察するに競技練習法や諸注意を掲げてトレーニングや練習を奨励したものと思われる。

競技種目についてその方法内容を説明する記事はあまり見かけなかったが、創立25年記念には鉄槌抛の状況を次のように記していた。

『1貫8百匁(注6.75kg)の鉄槌も6尺に足らぬ人間の能く之れを速き所に放抛し得るは豈愉快ならずや』

遊戯会の競技記録については一括後述するが第20回遊戯会の1哩競走記録は、距離の不足か計時の誤りでないとすれば著るしく優れた国際的記録である。その模様を同記念号 P. 38 では次のように報じている。

『一英里と言へば随分長きものなり宇田氏は昨年の二着者なれば本年は必ず勝利ならんと予言せるが阿部の豪勇新に出で4分17秒にて一、宇田氏は4分25秒にて二、石沢氏は4分27秒にて三着』

とあって1500mでも4分17秒という記録はその当時とすれば大記録であるのに、少しも讃えず驚いてもいない。当時比較する他の内外事情も分らず、記録に対する関心が薄く理解に乏しかったと見る外ない。第2回オリンピック1500m優勝記録はベネット(英)の4分6秒0阿部の記録を1500mに換算すると4分02~3秒に相当する世界最高記録となる。阿部の第21回遊戯会1哩では6分4秒6で3着、第22回遊戯会では優勝したが7分4秒5、第23回遊戯会では6分02秒5で2着であった。少なくとも同一人が数年間に以前の記録に劣る2分以上の差が出るとは考へられない。阿部の1哩4分17秒の記録は、これ等を考察して判断すると何かの誤りであったと断ずる外ない。しかしこれを証明するものもない。

好記録異聞は第22回遊戯会でも見られる。

『子の朝倉当時の覇王として場に立ち既に泰斗の風あり本の河野土の奥田森の足立農の横山の諸士共に斯界の勇者本校の花中原の鹿果して誰か掌中に落つるものぞ、

アンバイヤ・ミストル米山茲を晴れと令を下すアッテンションの声既に観客の汗を握らしむ、号砲一下スタートを示せば電雷奔馳声援の手声援の声天地ために震動せんとす——中略——既に300ヤードを過ぐ黒帽一個ダッシュ見事に衆を抜きて決勝線に入る——優勝旗は朝倉氏の手にあり而かも朝倉氏のスピード優に好レコードを示せるものなり。』

この時の朝倉の記録が46秒8というもので、これが距離も計時も誤りないとすれば無論日本記録である。第1回オリンピック400m競走記録がパーク(米)54秒2、第2回(1900)ロング49秒4、第3回ヒルマン(米)49秒2、第10回の記録がカー(米)46秒2というのであるから、これ等と比較すると超驚異的記録といつてよい。がこれを「部報」1 P. 92で見れば、遊戯会1/4英里競走記録は明治45年までは57秒(第25回、朝倉金彦)であるからこれが本物で46秒8は誤りであると断定してもよからう。

ついでながら短距離競走を電奔と言ったのであるが、この戦況報告でも「電雷奔馳」と形容したのは言い得て妙と言うべきか。しかしこの電奔という語も第23回遊戯会の二百碼戦況から「競走」と報告されるように変わっている。

『二百碼競走、先年は成田氏の声誉に帰し而して本年出でず群鶴を抜きて名をなしたるは副島氏の25秒なり——中略——』

百碼競走、競技者に得意と不得意あり、長距離を以て得意とするもの短距離を得意とするものあり、而して短距離程熱技と呼吸を要すること多し、此の競技は遊戯会中の最短距離なり以て競技者の至難とする所、安部氏と朝倉氏の呉越を争ふて其優劣を定め難かりしは近年の妙競技なりき。

短距離競走が技術を必要とすること、今でいうタイミングの良さが必要であること、そして短距離競走はその素質を供えていなければならないこと等を見抜いている。鋭敏な運動神経を供え高度の敏捷性素質者であることを言っているのもである。近代において「短距離走者はつくり出すというより先れ出るものだ」などと言われていることと一脈通ずるものがある。

『鉄槌抛、振はざりし事数年僅力絶無の若武者願はれぬ誰とかなす町村敬貴氏(農)其人なり、62尺9寸本年遊戯会中第一の花なるへし』

因みに町村敬貴氏は本道牧畜界の泰斗。(昭44年故人となられた)現北海道知事町村金五氏の実兄に当る。

遊戯会も回を重ねる毎に次第に種々の条件因子がはいってきて複雑さを増してきたようである。競技するものの態度にも考え方にも進歩の跡がうかがえるが、一方競

技技術や記録の進歩はその割でなく、マンネリズムがあらわれ、停滞の徴候も見られるようになってきた。役員や幹部が遊戯会の発展策を考え転換を図るべき時期に入ったのである。それはやはり、第24～5回遊戯会あたりからであろう。第25回遊戯会後の明治40年6月22日、札幌農学校は東北帝国大学農科大学となった。

『概評——前略——何等の故障なく何等の粉擾なく愉快を以て始まり、壮快を以て終りたり——中略——されど今回の遊戯技術に於て例年に多少劣れるものあることなり二人三脚において然り疾走高飛に於て然り』——略——と記録低下がまづ指摘されている。しかし同じ24回遊戯会で次のように、遊戯者の生化学的知識の高い認識程度がうかがえるような一文もある。

『喫茶亭はアルコール分の売却を禁じたり之れ理由ある制限なり、されど胃中に入りてアルコール・フェーメンテーションを起すべき菓子の制限は未だなしと化学者はつぶやきたり——』

これは現在ドーピングとしてとり上げられている問題と程度の差はあろうが、遊戯会ではすでにその当時から、スポーツ科学を認識して、誤りなく処理されていることを示す一断面をのぞかせているとも見られる。

『優勝旗返納式及優勝旗授与式は例によりて壮厳に行はれたり殊に今回より各学校4分ノ1哩競走に美麗なる優勝旗を授与することとなりたるを以て各学校中に盛んなるものありたり是れ実に北海道運動界の爲め一新機軸を作りたる有力なる運動の奨励法也』

優勝旗を授与して遊戯会の振興を図ったのであるが、第26～7回遊戯会頃から沈滞の色濃くなって行くのを食い止めようと苦心したようである。

『1丈9尺を飛んで天下の記録を破れる梁田氏去って後斯技(※注、疾走巾飛)に人なしハンデ—小野氏1丈4尺6寸の谷村進に破れたり蓋し技は磨かざるに荒む谷村氏と雖も奮発の余地はマ—ダマダ』

『二百碼競走、猛将朝倉氏ハンデ2碼を以て途中転倒新進の立花氏25秒を以て1等を得たのは拾ひ者』

『疾走高飛、身をひるがへして飛ぶ事正に6尺4寸(※実際は6尺0寸～1m82)人をして驚倒せしめたる素木氏去りて斯技漸やく衰ぶ野村氏僅か5尺を飛びて1等を得た乞ふ勉勵』

『棒高飛、ハンデ稲田豊氏7尺5寸を飛んで一等を占む往年佐藤昌氏及梁田頌氏の妙技人をして銷魂せしめたるを想えば転た古今の感に堪えない』

以上は遊戯会記録から引用したのである。沈滞の原因にはいろいろあったろうが、最大の原因はハンデ—キヤップ付という記録向上や連勝記録を妨害した点にあるのではなかろうか、これに気付かず依然としてハンデ—制

をとっていることは惜しかったと思う。

しかしこの頃の遊戯会では審判係に有島武郎の名を見出せるし報告書緒言だけは例によって名文調である。

『惜々たりし白雪藻岩山上僅かにその俤を留むれども蝶舞い鳥囀り緑草萬量のグラウンドを蔽へり——云々』

第27回遊戯会種目中に『中学校選手競走、では、翌年の第5回オリンピック予選会マラソンに出場した佐々木政清(小樽水産)選手の活躍を見ることができる。1校2名宛6校出場で『諸氏各々自信あり武者振ひに振ふ様見ゆ赤努力せりと雖も遂に佐々木のために破らる

1. 1分32秒 佐々木政清(樽水)
2. 1分34秒0 相川 定栄(札中)
3. 1分34秒1 奥山 寛(師範)』

佐々木政清選手は翌明治43年の第28回遊戯会にも同種目で優勝している。

第5章 遊戯会の記録と活躍した人々

1. 遊戯会の記録と活躍した人々

スポーツ記録が興味を呼ぶのは、それがその当時全国的にどんな位置を占めるか、国際的にはどういう比較になるのかといった点であろう。遊戯会の記録はいろいろな理由でそのまま受け止め兼ねる点はあるが、そんなつもりで見ると尽きない興味が湧いてくる。

- 1哩で4分17秒 阿部 忠一(第20回)
- 1/4哩で46秒8 朝倉 金彦(第20回)

の優秀記録についてはすでに述べたので省略するが、ハンデ—キヤップ付という制度は、遊戯会の記録向上にマイナスになったのではないかと疑問に思われる。

遊戯会で活躍した優秀選手を挙げると、記録上余り注目されなかったが棒高飛で4連勝した佐藤昌氏、百碼から1哩にまで縦横に活躍し、ことに二百碼22秒8という優れた記録を持つ朝倉金彦氏、跳躍の梁田頌氏等は優秀な選手として全国的な水準の実力者であったと見てよからう。

棒高飛11尺0寸(3m33)(明33)の佐藤昌の記録は、これより12年後(明治44年)羽田で行はれたオリンピック予選会棒高跳優勝記録8尺8寸5分小島勇之助(東京帝大)よりはるかに勝る記録である。

第18回遊戯会疾走巾飛に19尺7寸(5m97)梁田頌の記録はしばしば後輩激励に引き合いに出された好記録である。これも同オリンピック予選走巾跳一等明石和衛(東京帝大)18尺1寸(5m48)をはるかに上回っている。走高跳でも立花押尾(東京帝大)4尺7寸8分(1m45)に対し、素木得一(第22回)は6尺0寸(1m82)を跳

んでいる。

多種目に出場活躍してしかも優秀な成績を獲得している者を第15回遊戯会で拾ってみると、牧野環は $\frac{3}{4}$ 英里（C1等、70秒）、百碼電奔（1等、11秒5、金牌） $\frac{3}{4}$ 英里（1等、69秒0、金牌）韓信競走（1等、21秒3）三脚競走（2等、13秒2）その他2種目、計7種目出場フィールド優秀多種目出場者では梁田斌、1等が疾走巾飛（18尺0）疾走高飛（4尺8寸）その他疾走棒高飛百、二百碼電奔韓信競走等6種目、6種目出場して蛙飛競走1種目優勝他は不振であったがよく出て活躍したのが半沢洵氏、草場栄喜氏も6種目出場して優勝は1種目もしなかったが、全種目2等というのものもある。

これ等を表3から表18まで遊戯会成績一覧にしてみよう。その記録は優れているものとは思えない。しかしこの遊戯会に活躍した人々の中には、後年母校の教授になったり、全国的に知名になった人があったりで興深い。

このほか北海道帝国大学文武会陸上競技部初代部長松村松年、遠武勇熊（百、二百碼・高飛巾飛）鹿討豊太郎（半哩）、立花繁（半哩）等も遊戯会では華々しい活躍をした人々である。

2. 遊戯会の規則

遊戯会は一定の規則がつくられて行なわれていたものではないもののようであったが、第23回遊戯会を開催するに当たって次のような規則を定めることになった。そうになった事の次第は23回遊戯会を開催するに当たって第1回会議を開いた時、従来の審判規則は不備の点が少なからずあったので、粉塵を醸すことが間々あったということと定められたものである。

この規則は2章から成っており、第27条までであった。

遊戯会競技規則

第1章 競技者心得として第1条は競技者は不体裁な服装をしてはいけない。第2条は鐘声で所定の仕度所に集まり召集係の指揮を受けること。第3条は不正をしてはいけない反すれば審判が退場を命ずる。第4条正当な理由なく途中で落伍したものはその後の競技には加えない。第5条（原文）審判の判定は神聖にして侵す可らず第6条は現今の番号布に代るもので、赤本科、白子修科黄土木工学科、緑林学科、紫農芸科と帽子で表はす。第7条「競技者は自己の競技を他人に譲ってはならない」と変った規定である。

第8条からは第2章で競技細則が規定してある。第1節は競走で、第8条「発走線における」競技者の位置は競走の種類により内側より又は左側より起算し審判者に於て抽籤を以て之を定む、但し一列に並列し難き時は数列となすことあるべし」とあるが何のことはない「コース

は抽籤で決める」ということである。第9・10条は出発法で、「用意」——銃声——で出発することになるが、「用意」がかかったら「競技者から猶予を乞ふことができない」という規定。第11条は決勝点は赤条で示すこと。第12条は決勝審判法で「各自趾端決勝点に入る順序」で着順を決める。「同時に決勝点に入りたるもの2人以上ある時は同着者とす」と規定している。これは現在の規則とは全然ちがう。第13条は2人3脚の優劣は第1者の趾端で決めること。第14条陸上短艇競走の優劣も第1者の趾端部で決めることに規定してある。因みに陸上短艇競走は現在百足競走という種目なのだろうが、いつ頃から百足などという不風流な呼び方にしたかは明らかでない。

第15条から第2節飛技は跳躍規則である。15条は跳躍順、16条は巾飛の試技回数を3回と規定し同距離者は更に競技して頂位に決着つける点は競走と異なる。17条は巾飛のファウル判定法で、18条の巾飛測尺法は重要な規定である。「巾飛に於ては飛躍前の趾端痕より飛躍後の趾端痕迄の最短距離を計測」19条は高飛・棒高飛の試技は3回であること。20条はふるっている。『高飛に於ては「宙返」又は「猫返」を禁ず』とある。もっぱら正面跳で、ベリーロールやロールオーバーは反則ということになる。第21・22条は跳躍のファウル規定で、踏切線や縄下を2回空しく通過すると1回の仕損じと計算される。

第3節は投技で第24条鉄槌擲は3回試技すること、これも同距離のものは更に競技せしめる。第24条「鉄槌擲は趾端痕より地に落ちたる点迄算す」と規定している。

第4節は優勝者競技について規定している『第25条、優勝者競走は百碼、二百碼4分の1英里、半英里競走に於ける受賞者を以て構成す』とある。

第5節は各科選手競走について規定し、第26条に各科から2名づつの選手を出して競走せしむ。第27条は各科選手競走で優勝したものに優勝旗を授く。以上であるが、第24回遊戯会に競技規則の追加があった。第18条の次に第19条として挿入するというもので「巾飛においては飛躍前の趾端痕より飛躍後の趾端痕迄の最短距離を計測す。第29条には、科対抗競走で同着者が出た場合、同着者だけ更にもう一回競走することを規定している。

その他2～3あったが大きい意味は認められないので省略する。跳躍距離の測定が一足長だけ余分に計算される甘さ、競走競技では同着をそのまま認めていたのを第24回から同着者だけ頂位決定の再競技を行なうこととした。これは酷で不公平のように見えるが遊戯会に於ける競技はすべて予選が行われず、同着者に再競走せしめる規定は、勝者を異状なまでに尊重した当時としてはあり

そんな規則と考へられる。

第6章 遊戯会から陸上競技への発展

1. 遊戯会の発展的解消に至る諸事情

明治末期から大正の初めにかけて、長く続いていた遊戯会は、その地域的条件、学校の性格、全国的影響の稀薄さなどからマンネリ化沈滞現象が見られるようになった反面、これを打破し、新局面の改革展開をねらう努力や、一面遊戯会的一大発展であると見られるような事実も見受けられてきた。そのような現象を点描して遊戯会変貌の様子を探ってみることにしよう。

輝やかしい遊戯会発展の第1の事実は、大正6年芝浦グラウンドで開かれた第3回極東競技大会五種競技で、鷺山正次郎が287点をえて優勝したことが挙げられる。鷺山正次郎（大正7年農芸化学科卒）は遊戯会が生んだ国際的水準の競技力をもった最初の逸才であると言える。彼の優勝は新興北海道スポーツ界の輝やかしいスタートとして全国に声価を高からしめたのである。この模様を伝える一端を資料39では「スポーツ史上に輝やかしい戦績を残して、鷺山君が民国大統領黎元洪氏寄贈の五種競技宝塔型トロフィーを手にし、凱旋將軍の如く萬歳歓呼熱狂する幾万人の群衆に迎へられて札幌駅頭に着いたのは大正6年5月17日であった」とある。

翌大正7年夏鷺山正次郎他数人の農大選手を講師として陸上競技の講習会を開いたが、これを出発点として北海道の陸上競技界の大発展が見られた。その1～2をあげるとこの講習会後はまづ出発合図が「オンユア・マーク、ゲットセット——銃声」と変り、スタート法も、スタンディングスタートからクローチング法に変わった。

大正7年の第35回遊戯会では、円盤投・砲丸投・槍投の投擲種目が加わった。それ以前に鉄鎚投の木の柄がほぼ現在のものと同じものに替えられていた。5哩マラソンという長距離種目も加えられた。

大正7年4月1日で東北帝国大学農科大学という名称が北海道帝国大学と変った。

大正9年はアントワープオリンピックの年であるが、遊戯会が純オリンピック式で行われたのもその年からである。このことは遊戯会の性格を変える大革新であった。この年障害走三段跳も加えられた。

この頃遊戯会の改造が叫ばれ、お祭り騒ぎから競技本位・レコード本位が奨励され、北海道の権威たれと改革が唱えられた。

大正10年は学年短縮のため遊戯会は中止された。

大正11年第39回遊戯会を10月初旬に変更して行なった

が、これを最後に遊戯部は発展的解消することとなり、陸上競技部が成立したのである。明治11年に始まり、44年間39回も継続されてきた遊戯会は遂に姿を消してしまつたのである。

こうして遊戯会が姿を消し去つたのは時代の推移で「要するに従来の遊戯部を廃し、お祭り騒ぎ部分を文芸会に返却し、新に陸上競技部を作り、純オリンピック競技の実際と研究を行はんとするに外ならぬ」と当時の陸上競技部主任幹事宮城孝治氏の言である。

大正12年4月初代陸上競技部長に松村松年氏が推せられ、北海道スポーツ開発実力養成のための陸上競技追求を旗印しに掲げ新しい時代へとスタートを切った訳である。

松村初代部長が遊戯会の回顧談を、部創立50年記念部報1号に述べている言をとりとびながら拾ってみると次のようなものがある。「今のレコードや競技本位の競走を見ると、その懸命の度は違い、他に比較すべき相手がないたため、今日の如きオリンピックの競争心が起らなかったことは争われない。」——「秋には新入生の歓迎を兼ねてマラソン競走が行はれた。豚汁で全職員学生が来会して親睦を図り、愉快に一日を消光したものだ。」——「遊戯会に参加して1等賞を得たドイツ語の玉井喜作先生は当時有名。その後徒歩でシベリヤ横断、困苦をなめた末ドイツに達し長時ベルリンに居住していた」

遊戯会は単純なスポーツの1行事に過ぎないが、遊戯会を廻る諸事情は誠に多彩なものがあつたことが察せられる。

2. 遊戯会雑報

遊戯会に関する記録で間接的に体育・スポーツ情報となりそうなことを点描することもまた興味をそそめるものがある。

▷矢鱈減法

〔資料41〕

第23回遊戯会の様子を時々刻々に謄写版プリントで報道した。また絵葉書を発行して来観者に配り大いに興を添えた。同じ報道班でも第19回遊戯会では「毎時新聞社」と名乗り遊戯の勝敗、会場内諸般の報道をして称讃を博した。プリントしたものを「諸生は異様の風采をなして之れを来賓に頒与せり」と。こんなものを矢鱈減法と呼んだのであるが、これで結構好評を博していた様子がうかがえる。星移り年を経て現今の「矢鱈減法」は何如なものだろうか。学生生活を豊かなものにする糧になっているか否か？

▷ジャスト・ヒーム

どの遊戯会でも余興があり、仮装行列では観衆をしてその奇にアッと驚嘆せしめるものが多かった。第28回遊

〔資料42〕

戯会では実科1年の「明治桃太郎」と題した仮装行列で「捕虫網を先登に豆の葉・西瓜・苹果・玉葱・大根・豆の一群は被害者宜敷という出立にて悄然と従がふ。それに次いでバクスグリーン更に次いでフロックコートの敵めしき紳士頭には松村液と書きし薬ビンを戴きたれば一同アッと仰天せし程に居合せし外人まで「ジャストヒーム」と低語したるぞ奇中の奇とも謂ひつべし」

仮装行列は、恵連寮祭や大学祭のとき教養部学生が今も昔同様に行なっているが、万人にジャストヒームをささやかせるものがありやなしや。

▷遊戯会緑門

〔資料43〕

「榆梅の木径2尺ばかり長2丈程のものを2本伐採し、之を2頭立ての牛車に曳かせて学校の会場入口にすえてグリーンアーチの柱骨とした。暫らくの年月そのままにして門とした」

如何にも北海道にふさわしい雄大なアーチができたことであろう。今の学生にもこんな逞ましいアーチ柱骨が欲しい……と言ったらやはり老爺心だと笑われるだろう。

▷遊戯会と帝大（今の東大）運動会の出発合図

遊戯会のスタート法はスターターが最初「アッテンション」と言い、次に村田銃で「ドン」と合図して出発させた。

〔資料44〕

ところが「最初の帝大運動会のスターターは当時幹事であった服部一三で『イムカ』『一二三』で破れた蝙蝠傘を振ると出発した。18年にはノットという英国人の教師が来て出発合図には銅羅を用いることとなった。」というのである。

どのスタート法がスッキリしていたかは明らかであろう。遊戯会と帝大運動会の差はスタートでははっきり現われていたと見るのはひがみか？。

第7章 総 括

北海道大学の前身札幌農学校の創草期から大正時代に至る遊戯会を通じて体育・スポーツを見たのであるが、札幌農学校の遊戯会はレクリエーション・スポーツの方法を知らなかった当時の札幌市民には、お祭りのように興味と親しみをもって迎えられ、地域市民と学園学生教職員が挙げて深いきづなで結ばれた対話の場でもあった。

遊戯会の来賓には道庁長官をはじめ第1級の貴紳士淑女及び一般観衆が会場を埋め、歓呼して学生達の真剣で、ユーモア溢れた遊戯・競技を観賞したのであった。文化・文明・教養といろいろな意味を含めて地域社会啓蒙にも大きな役割を果たしていた。

遊戯会はスポーツ体育黎明期の陸上競技会であるが、我が国における運動会・体育大会の濫觴として、北海道のみならず全国的に体育啓蒙に果たした功績はまことに大きいものがあつたと考へられる。それはクラークの教育精神に由来し、当時の札幌農学校全学生教官が真の体育精神に基づき全校挙って行なつた学生練磨の一大行事でもあつたのである。

明治11年第1回遊戯会が始められ、初期は路上で行ない、後校舎の後庭で行なわれた。特定常置のグラウンドがなかったの、記録はよいものでなく、練習場も競馬場やどこかの芝生を借りたりなどして遊戯会に備えた。遊戯会活動は長期にわたって道内に限られていたが、第5回近代オリンピック全日本予選会における佐々木政清（小樽水産）氏のマラソン第2位、大正年代に入り鷺山正次郎（農大）氏が極東大会に優勝するに及び、一躍対外的にも遊戯会の功績が認められるに至った。

大正の初期から遊戯会のスポーツとしての発展のため改革が叫ばれていたが、お祭りのレクリエーション的なものは文武会に返上して、純オリンピック式に行なわれることとなるに及び、大正11年39回をもって遂に遊戯会は姿を消していったのである。しかし遊戯会は今、学校と言わず会社各種団体にも運動会の名で行なわれている。遊戯会は体育・スポーツにとっては燦然と光り輝やく遺産を残して時世の波の彼方へ静かに没し去つたと見るべきだろう。

表3 第15回遊戯会成績一覧（明29.5.16）

競技 番号	受賞 数	出場 者数	競技種目	順位	記録	姓名
1	3	6人	矢走幅飛	1等 2 3	18尺2寸 17尺4寸 一	梁田 敏 湯田 勝治 草場 榮喜
2	3	16人	200碼電奔	1 2 3	27" 4" 27" 4" 27" 6"	畑 浩作 草場 榮喜 梁田 敏
3	3	5人	竹馬競走	1	19" 4"	横井伝三郎
4	3	14人	戴帽競走	1	14" 3"	井 街頭
5	3	金牌25人	4分、1英里競走	1 2 3	70" 0" 72" 0" 74" 0"	牧野 環 荒尾 光雄 接待 初郎
6	3	5組	蛙飛競走	1	20" 0"	佐藤政次郎
7	3	9人	矢走高飛	1 2 3	4" 8" 4" 7" 4" 6"	梁田 敏 菊地 謹 平沢 真
9	3	金牌18人	100碼電奔	1 2 3	11" 5" 12" 0" 12" 5"	牧野 環 草場 榮喜 畑 浩作
10	3	銀牌10人	鉄槌抛	1 2 3	60" 0" 59" 8" 54" 5"	佐藤 昌 猪 鉄之助 奈良 清
11	3	19人	背面競走(100碼)	1	18秒5	鈴木 慶勝
12	3	12組	陣信競走(100碼)	1	21" 3"	梁田 敏 牧野 環
13	3	銀牌12人	兵装4分、1英里競走	1 2 3	79" 5" 82" 0" 90" 0"	大村 卓 斎藤 永六 芳賀秋五郎
14	3	7組	三脚競走(100碼)	1	13" 2"	平野 真 梁田 敏
16	3	17人	一足競走(100碼)	1 2 3	23" 8" 54" 0" 58" 0"	畑 浩作 菊地 謹 荒尾 光雄
17	3	25人	障害物競走(200碼)	1 2 3	54" 0" 58" 0" 61" 0"	藤 謙弥 熊雄 荒尾 光雄
18	3	銀牌12人	薯拾競走(10箇 1115尺)	1 2 3	87" 8" 88" 0" 89" 0"	江原 清 畑 浩作 伊藤 清蔵

明治大正時代の北海道大学におけるスポーツ・体育に関する研究

19	3	6人	4分、1英里競走 (伝習科)	1 2 3	77秒4 80〃0 100〃0	田中 桑原 南
20	3	20人	食菓競走(百碼)	1	24〃0	荒尾 光雄
21	10		来賓児童競走	1		酒匂
22	3	金牌29人	半英里競走	1 2 3	159〃2 164〃0 166〃0	斎藤 永作 廣瀬 潤平 江原 帯一
23	10		来賓競走(200碼)	1	28〃0	上田祥次郎
24	3	銀牌	矢走棒高飛	1 2 3	10尺5寸 10〃0〃 9〃8〃	佐藤 昌 草場 栄喜 泊鉄 之助
25	2		優勝者競走 (200碼 4分1英里)	1 2	69秒0 69〃5	牧野 環 畑 治作
26	3	金牌	市中各学校生徒競走 (4分、1英里)	1 2 3	74〃6 75〃5 76〃5	今村(斎藤伝習所) 東嶋(英語学校) 広部(札幌尋常中学校)
28	6		学士競走(200碼)	1	28〃0	菊地 樺
29	5	金牌25人	1英里競走	1 2 3	362〃5 364〃5 366〃8	斎藤 英治 佐藤 清蔵 竹崎八十雄
30	3		来賓半英里競走	1	569〃0	広瀬 潤平 宮崎貞次郎

表4 第16回遊戯会成績一覧表(明30.5.15)

競技 番号	受賞 数	賞牌	参加 者数	競 技 種 目	順位	記 録	受賞者姓名
1	3	銀牌	6人	疾走幅飛	1 2 3	17尺6寸 16〃9〃 16〃3〃	梁田 斌 芳賀秋五郎 半沢 洵
2	3		8人	二百碼電奔	1 2 3	27秒5 27〃6 27〃8	牧野 環 梁田 斌 畑 治作
4	3	銀牌	6人	鉄鑼抛	1 2 3	55尺6尺 52〃3〃 51〃7〃	泊 鉄之助 奈良 昌 佐藤 昌
5	3		7人	4分、1英里競走	1 2 3	1分06秒0 1〃07〃0 1〃20〃0	畑 治作 半沢 真 佐々 茂雄
8	3	銀牌	6人	疾走高飛	1 2 3	5尺0寸 4〃9〃 4〃8〃	泊 鉄之助 梁田 斌 菊地 謹弥
11	3	金牌	13人	百碼電奔	1 2 3	11秒0 11〃5 12〃0	牧野 環 梁田 斌 畑 治作
15	3	銀牌	6人	疾走棒高飛	1 2 3	10尺最巧 10尺上巧 10尺巧	佐藤 昌 泊 鉄之助 草場 栄喜
19	3		11人	4分、1英里競走 (伝習科)	1 2 3	1分14秒0 1分17〃0 1分20〃0	小川 宗明 山下 豊次 増本 豊次
23	3	金牌	28人	半英里競走	1 2 3	2分29秒0 2分30〃5 2分50〃0	広瀬 潤平 平山八十五郎 平 沢真
26	3	金牌及び 婦人財寶	4人	優勝者4分の1英里競走 (200碼及4分の1英里)	1 2 3	1〃08〃5 1〃10〃0 1〃14〃0	牧野 環 畑 治作 半沢 真
27	3	金牌	一	市中合学校生徒選手競走 (4分、1英里)	1 2 3	1〃00〃0 1〃14〃0 1〃14〃0	根岸 泰輔 (尋中) 小林 正雄 (師範) 武藤 盛人 (同上)
29	5	金牌	16人	1英里競走	1 2 3 4 5	6〃05〃0 6〃05〃5 6〃06〃8 6〃09〃0 6〃15〃0	平山八十五郎 広瀬 潤平 江原 帯一 中村由太郎 木村彦次郎

表5 第17回遊戯会優勝者一覧(明31.5.14校庭)

競技 順序	競 技 種 目	ハイデ キヤツプ	記 録	優勝者名	賞牌
1	疾走幅飛	8寸梁田斌	16尺5寸	泊鉄之助	銀牌
2	鉄鑼抛	8寸泊鉄之助	58〃8〃	奈良 浄	銀牌
4	手拾競走		26秒0	吉田 環	
6	二百碼電奔		26〃2	牧野 環	
10	四分、一英里競走		1分12秒2	平沢 真	
12	疾走高飛	1寸泊	5尺0	泊鉄之助	銀牌
13	目隠競走		15秒0	桐野 環	
14	三脚競走		14秒2	半沢、畑	
15	疾走棒高飛	2寸佐藤昌		佐藤 昌大銀牌	
16	手拾競走	2間平沢真	1分25秒0	平沢 真	金牌

18	百碼電奔		12秒0	牧野 環	金牌
20	ハ装四分、一英里競走	2間広瀬	1分25〃7	奈良 額牌	
19	障害物競走		53〃2	泊	
21	四分、一英里競走		1分17〃8	木村(伝)	
22	韓信競走		24〃7	半沢 佐藤(政)	
23	半英里競走	5間広瀬	3分00〃	広瀬	
24	提「競走		35〃6	飯塚	
25	来賓競走(200碼)		29〃4	吉田 常造	
26	食菓競走		27〃0	半沢	
27	優勝者競走(1/4哩)	2間牧野	1分14〃8	平沢	金牌婦人財寶
同上			2着	牧野	
28	市中中学校選手競走 (1/4哩)		1分15秒0	前野 康平 (中学校)	金牌
29	市中小学校選手競走 (200碼)		29〃2	三浦 吉弥 (創成小)	
30	学士競走二百碼		27〃0	松村 松年	
同上			2着	吉田 時	
31	一英里競走		5分35秒6	広瀬 潤平	
同上			12着5分41秒0	畑	
同上			3着5分50〃0	山下 政一	
32	来賓半英里競走		3分14秒0	丸山	

表6 第18回遊戯会優勝者一覧

(明32.5.6, “遊戯会記録”より)

競技 順序	競 技 種 目	ハンデ キヤツプ	記 録	優勝者名
1	疾走幅飛		19尺7寸	梁田 斌
2	背面競走(百碼)		19秒5	森谷
3	鉄鑼抛		58尺3寸	泊
5	二百碼電奔		26秒0	根岸
7	一足競走		25〃5	畑
8	竹馬競走		18〃0	飯塚
10	三分、一英里競走		1分05〃0	根岸
11	戴簪競走		13〃6	鈴木
12	疾走高飛	2寸泊	5尺2寸 2等5〃0〃	梁田 泊
13	三脚競走		14秒5	畑、半沢
14	韓信競走		26〃1	泊、牧野
15	疾走棒高飛	2寸佐藤	1文08寸 2等1〃00	佐藤 荒尾
16	寡拾競走	10尺平沢	72秒5	平沢
17	百碼電奔		11〃8	泊
18	ハ装四分、一里競走	15尺奈良	78〃0	西垣
19	障害競走		46〃8	泊
20	驚競走	新種目		後藤
22	合併半英里競走		2分50秒0	根岸
25	五分、一英里競走		72〃5	種市
24	来賓二百台競走		29秒0	大沢
26	優勝者競走(1/4哩)		1分07〃0	根岸
27	市中各学校四分、 一里英競走		1〃05〃5	大竹(師範)
29	市中小学校競走 (200哩)		27〃9	米谷
30	一哩競走		6分58〃0	中村
31	学士競走		29〃0	松村
32	来賓半英里競走		2分54〃0	中山

表7 第19回遊戯会優勝者一覧

(明33.5.5, “遊戯会記録”より)

競技 番号	競 技 名	距 離	競技 人員	記 録	優 勝 者 名
1	疾走幅飛		7人	15尺8寸	芳賀鐵五郎(本)
2	背面競走	100碼	7	17秒3	鈴木 慶松(本)
3	鉄鑼抛		9	58尺1寸	星野 勇三
4	担荷競走	100碼	5	18秒0	柳川鑑造、梁田斌、 森谷 鉄造
5	二百碼競走		9	26〃0	根岸 泰助(本)
6	蛙飛競走	100碼	10	17〃5	柳川 鑑造 家坊(予)
7	一足競走	100碼	6	26〃4	森谷 鉄造(予)
9	提「競走	100碼	24	64〃4	高城 道三(工)
10	四分、一英里競走		8	65〃0	根岸 泰介(本)
11	戴簪競走	100碼	26	14〃0	柳川 鑑造(予)
12	疾走高飛		6	5尺4寸	大関 雄兄(予)
13	二人三脚	100碼	13	14秒0	鈴木寧、原富雄(予)
14	韓信競走	100碼	10	27〃0	根岸泰介、森谷鑑造

教育学部紀要 第17号

15	疾走棒高飛		5	9尺0	影山 滋樹 (予)
16	芋拾競走		15	1分18秒0	中村由太郎
17	軍人競走	1/4英里		79" 5	平田健太郎 (砲兵5中隊)
18	百碼電奔		15	12" 0	宮坂藏三郎 (予)
19	兵装競走	1/4英里	6	84" 0	大関 雄兄 (予)
20	障害物競走	200碼	18	60" 0	国井 恒三 (農)
23	半英里競走		9	2分44" 0	根岸 泰介 (本)
24	來賓競走	200碼		27" 0	五条 栄次
26	仁重競走	100碼	25	21" 5	中野留三郎 (農)
28	優勝者競走	1/4英里	4	1等69" 0	根岸 泰介 (本)
29	各學校選手競走	1/4英里	6	2等72" 0	服部 幸一 (工)
27	各學校選手競走	1/4英里	6	66" 0	中沢 直道 (中)
28	各小學校選手競走	200碼	16	28" 5	米谷基太郎 (創成)
29	學士競走	100碼			牧野 環
30	一英里競走		11	6分16秒0	上野 松吉 (工)
31	來賓競走	半英里		2" 37" 0	佐田善太郎 (創成)

表8 第20回記念遊戯会成績一覧

(明34.5.14, 札幌農学校創立25周年記念誌P38)

競技 順位	競 技 種 目	距離	ハン デキャ ップ	競技 人員	順 位	記 録	姓 名
1	疾走幅飛			9人	1 2 3	17尺8寸 17" 4" 16" 5"	柳川 鑑三(予) 山本喜代松(工) 宮坂藏三郎(予)
2	二百碼電奔			18人	1 2 3	26秒0 26" 5 26" 6	緒方 虎雄(森) 服部 幸一(土) 宮坂藏三郎(予)
3	蛙飛	100碼		6組			鈴木 寧(予) 河野 孝太(予)
4	戴藝			25人			河野 孝太(予)
5	百碼電奔		1尺 宮坂	19人	1 2 3	11秒0 11" 2 11" 5	影山 滋樹(予) 宮坂藏三郎(予) 根岸 泰介(本)
6	鉄槌抛		8寸 星野		1 2 3	61尺00寸 60" 00" 60" 7"	根岸 泰介(本) 原田 友作(本) 星野 勇三(本)
7	兵装四分, 一英里		15碼 大関	5人	1 2 3	1分18秒0 1" 18" 0 1" 17" 5	根岸 泰介(予) 雄兄(予) 鈴木 重慶(農)
8	二人三脚	100碼		6組			多吉(農) 大田 石山 山本喜代松(予)
9	棒高飛		2寸 影山	5人	1 2 3	10尺8寸 10" 8" 10" 4"	影山 滋樹(予) 影山 滋樹(予) 河野 孝太(予)
10	半英里競走			9人	1 2 3	2分28秒1/4 2分29秒0 2" 30" 0	河野 孝太(予) 雄兄(予) 山本 喜代松(予)
11	疾走高飛			7人	1 2 3	5尺2寸 5" 1" 5" 0"	江刺 家昂(予) 佐友 璋一(予) 河野 孝太(予)
12	提灯競走			10人			大関 雄兄(予)
13	芋拾競走			10人		1分29秒0	坂本太次郎(予)
14	各學校選手競走			6人	1 2 3	1" 04秒5 1" 06" 0 1" 07" 0	武藤 光守(師) 木村栄太郎(師) 奥井 信三(中)
15	各選手競走	1/4哩		6人	1 2 3	1" 04" 5 1" 05" 5 1" 06" 0	影山 滋樹(予) 服部 幸一(工) 緒方 虎雄
16	一英里競走			15人	1 2 3	4" 17" 0 4" 26" 0 4" 27" 0	阿部 忠一 宇田 信行 石沢雄右衛門

表9 第21回遊戯優勝者一覧

(明36.5.7, “遊戯会記録”より)

競技 順位	競 技 名	距離	参加 人員	記 録	姓 名
1	疾走幅飛		8人	18尺2寸	宮坂藏三郎
2	戴藝競走	100碼	19	16秒0	鈴木 寧
3	鉄槌抛		6	69尺9寸	江刺 家昂
4	二百碼競走		12	26秒7	影山 滋樹
5	二人三脚競走	100碼	4組	13" 5	鈴木寧, 原富雄
6	竹馬競走	100碼	2人	21" 0	板井 忠尾
7	提灯競走	200碼	20	1分58秒0	栗田 参
8	四分, 一英里競走		9	1" 08" 0	平田松太郎
9	盲目競走	100碼	8	12" 5	柳川 鑑蔵
10	棒高飛		6	9尺5寸	片桐 嘉晴
11	芋拾競走		5	1分42秒0	大関 雄兄
12	百碼電奔		12	11" 0	影山 滋樹
13	食菓競走			2分38" 0	柳川 鑑蔵

14	疾走高飛		6	5尺5寸5分	佐友 璋一
15	半英里競走		8	2分45秒0	阿部 忠一
16	轉転がし競走	100碼	5	40" 0	柳川 鑑蔵
17	サツク競走	100碼	6	1分31" 0	板井 忠尾
18	兵装競走	1/4英里	6	1" 19" 0	大関 雄兄
19	副木競走	100碼	6	17" 0	原富 雄
20	障害物競走	1/4英里	19	2分05" 0	湯池 武定
21	優勝者競走	1/4英里	3	1" 12" 0	平田松太郎
22	各學校選手競走	1/4英里	5	1" 07" 0	伊沢 (師)
23	市中小學校選手競走	200碼	6	28" 6	鎌田 善吉(創成)
24	各科選手競走	1/4英里	7	1分05" 0	成田 忠正(森林科)
25	職員競走	200碼	8		松村 松年
26	來賓競走	200碼			柴田 (土屋病院)
27	一英里競走	H20碼	阿部	7分04秒5	阿部 忠一

表10 第22回遊戯会成績一覧

(明37.5.14, 本校付属第牧草地)

競技 順位	競 技 名	距離	ハン デキャ ップ	競技 人員	順 位	記 録	姓 名
1	疾走幅飛			7	1 2	16尺6寸 16" 4" 5分	柳川 鑑蔵(本) 宮下 道一(工)
2	戴藝スプーン	100碼		1			牟田吉太郎(森)
3	疾走高飛			6	1 2	6尺00寸 5" 9寸	吉本 得一(本) 江刺 家昂(本)
4	二百碼競走	200碼		1	1 2 3	25秒0 28" 5 28" 7	成田 忠正(森) 副島 昌吉(予) 奥田 常吉(工)
5	二人三脚	100碼		1		12" 8	江刺 家昂(本) 大関 雄兄(本)
6	背面競走	100碼				17" 7	鈴木 寧(本)
7	四分ノ一英里競走	1/4英里		1	1 2 3	1分04" 7 1" 06" 0 1" 06" 1	横山 宗吉(農) 平田松太郎(農) 副島 昌吉(予)
8	鉄槌抛			8	1 2	55尺8寸 55" 3"	吉田又三郎(予) 森本 得一(本)
9	芋拾競走	100碼	4碼	1		1分45秒0	大関 雄兄(本)
10	百碼競走	100碼		1	1 2 3	11" 7 12" 0 12" 2	江刺 家昂(本) 朝倉 金彦(予) 平田松太郎(農)
11	棒高飛		3寸	4	1 2	1位1寸 1" 0	河野 孝太(本) 片桐 嘉晴(本)
12	半英里競走	1/2英里	15碼	1	1 2 3	2分40秒0 2" 41" 0 2" 45" 0	阿部 忠一(本) 大関 雄兄(農) 田添 保(農)
13	異装百出競走	1/4英里		1		2" 49" 0	吉田 守一(農)
14	サツク競走	100碼		1		30" 5	板井 忠尾(農)
15	異装四分ノ一英里	1/4英里		1		1分18" 0	河合 始造(農)
16	聖物競走	1/4英里		1		2" 14" 0	栗林 新造(工)
17	優勝者競走	1/4英里	3	1		1" 06" 7	横山 宗吉(農)
18	來賓競走	200碼		1		2" 06" 7	栗田
19	各學校選手競走	1/4英里	6	1	1 2 3	1" 06" 5 1" 06" 8 1" 06" 8	渡辺 (札中) 山口 (札中) 山口 (札中)
20	市中小學校選手競走	200碼		16	1	29" 2	上田 (創成)
21	職員競走	200碼		1	1 2 3	29" 1 30" 7 30" 7	東海林 石田 昌人 松村 松年
22	見物人競走	200碼		1		27" 0	三浦
23	各科選手競走	1/4英里	8	1		46" 8	朝倉 金彦(予)
24	一英里競走	1英里	25碼	1	1 2 3	6分00" 0 6" 03" 5 6" 04" 6	朝倉 金彦(予) 橋本 正平(工) 阿部 忠一(本)

表11 第23回遊戯会成績一覧

(明38.5.14, 第2農園牧草地)

競技 順位	競 技 名	距離	ハン デキャ ップ	参加 人員	順 位	記 録	姓 名
1	疾走幅飛			1	1 2	15呎25 16" 11	阿部 忠一 宮下 道一
2	二人三脚	100碼		1		12秒0	島海二郎谷岡吉次郎

明治大正時代の北海道大学におけるスポーツ・体育に関する研究

3	二百碼	200碼		1	25"0	副島 昌
				2	28"5	朝倉 勲
				3	24"0	水野 良一
4	ハ装四分一 英里競走	1/4 英里		1	1分19秒0	科野重次郎
5	疾走高飛			1	5尺8寸5分	森木 得一
				2	5"7"0"	江幸 家昂
6	四分ノ一英里競走	1/4 英里		1	1分08秒0	野田 実
				2	1"09"0"	鈴木 清彦
				3	1"10"0"	朝倉 勲
7	鉄槌抛			1	62呎11寸	町村 敬貴
				2	54"00	森木 得一
8	棒高飛			1	9尺5寸	片桐 嘉靖
				2	9"5"	横山 直也
9	手拾競走			1	1分30秒0	大関 兄雄
10	百碼	100碼		1	(11秒7)	阿部 忠一
				2	(11"7)	朝倉 金彦
				3	21"半	水野 良一
11	二人三脚			1	21"半	高松正信 三浦慶太郎
12	依競走			1	16"0	町村 敬貴
13	半英里競走	1/2 英里		1	2分39"0	田添 保
				2	2"41"0"	栗林 始
				3	2"41"半	前田 久吉
14	陸上端艇競走			1	40"0	久保直一、山崎常徳
15	サツク競走			1	28"0	谷岡吉次郎
16	障害物競走			1	1分66"0	栗林 始
17	優勝者競走			1	1"07"0"	田添 保
18	軍人競走			1	1"12"20"	山田
19	軍人武装競走			1	1"14"44"	川崎文次郎
20	各小学校生徒競走			1	28"0	築木 (創成)
				2	29"0	佐藤 (付属)
21	各校四分ノ一 英里競走			1	1分06"0	柴田惣八郎 (北法)
				2	1"06"5	渡辺 保 (札幌中)
22	米賽競走			1	1"09"0"	秋原 喜一
23	留学生百碼競走			1	13"0	史決 威
24	各科選手競走			1	1分08"半	朝倉 金彦
25	見物人競走			1	1"08"0"	吉田辰次郎
26	一英里競走			1	5"55"0"	田添 保
				2	5"02"0"	朝倉 金彦
				3	5"07"0"	鈴木 清彦

表12 第24回遊戯会成績一覧

(明39.5.12, ○印ハンデキャップ付)

競技 順序	競 技 名	着順	記 録	姓 名
1	疾走幅飛	1	1丈6尺9寸	江利 家昂
		2	1"1"3"	森木 得一
2	二人三脚	1	13秒5	谷岡吉次郎 島海二郎
3	二百碼競走	1	26"1	園分鐵次郎
		2	26"2	日暮 伝修
		3	26"5	古賀 雅彦
4	ハ装四分ノ一英里競走	1	1分19"0	前田 久吉
5	疾走高飛	1	5尺7寸	江利 家昂
		2	5"8"	○森木 得一
6	四分ノ一英里競走	1	1分06秒0	○野田 実
		2	1"02"0"	園分鐵次郎
		3	1"04"0"	田辺 周二
7	鉄槌抛	1	62呎00	山内政五郎
		2	56"4	行田又三郎
8	百碼競走	1	11秒0	古賀 雅彦
		2	11"5	日暮 伝修
		3	11"6	朝倉 金彦
9	棒高飛	1	9尺0	横山 直也
		2	8"0	倉敷 秀雄
10	1分間競走	1	400呎(碼ノ誤)	古賀 雅彦
		2	390"(")	田辺 周二
11	手拾	1	1分30秒0	沢田 実
12	食菓競走	1	36"0	小坂 均
13	半英里競走	1	2分55"0	前田 久吉
		2	2"58"0"	田添 保
		3	2"40"0"	原正 夫
14	陸上端艇	1	35"0	山田拍探、木下保助
15	サツク競走	1	29"0	谷岡吉次郎
16	障害物競走	1	1分57"0	○井善次郎
17	優勝者競走	1		
18	区内小学校選手競走	1	27秒0	佐藤武四郎 (付属)
		2	28"0	土肥 二郎 (創成)
19	各校四分ノ一英里選手競走	1	1分03"0	田中正太郎 (師)
		2	1"04"0"	岩橋 重人 (師)
		3	1"05"0"	島田 実 (樽中)
20	留学生競走	1	29"0	干 樹旗
21	職員競走	無		
22	各科選手競走	1	1分02秒0	朝倉 金彦

23	見物人競走	1	1分04秒0	柴田惣八郎
		2	1"05"0"	桑原 華栄
		3	1"07"0"	高橋祐五郎
26	一英里競走	1	5"53"0"	朝倉 金彦
		2	5"57"0"	鈴木 良吉
		3	5"58"0"	佐藤善 五郎
		4	5"02"0"	吉益 道
		5	5"03"0"	前田 久吉

表13 第25回遊戯会成績一覧 (明40.5.14)

競技 順序	競 技 名	順位	記 録	姓 名
1	疾走幅飛	1	1丈5尺2寸	小野沢新一
		2	1"4"6"	畑中 乙吉
2	二人三脚	1	12秒0	高松正信、島海二郎
3	二百碼	1	22"7	朝倉 金彦
		2	24"0	茂木孝太郎
		3	24"5	副島 昌
4	疾走高飛	1	4尺9寸	浦上啓五郎
		2	4"8"	茂木孝太郎
5	ハ装四分ノ一英里競走	1	1分33秒0	村上雄之助
6	棒高飛	1	1丈00	稲田 豊
		2	9尺00	北沢 道
7	四分ノ一英里競走	1	57秒0	朝倉 金彦
		2	1分04"0"	菅井 博愛
		3	1"05"0"	茂木孝太郎
8	鉄槌抛	1	53尺8寸	畑中 乙吉
		2	ハンデ 53尺0寸	山内政五郎
9	百碼	1	12秒5	朝倉 金彦
		2	14"0	長谷川 浩
		3	14"5	米田繁次郎
10	手拾競走	1	1分33秒0	村上雄之助
11	1分間競走	1	447碼	茂木孝太郎
		2	441"0	野田由太郎
12	食菓競走	1	45碼	塩沢梅之助
13	半英里競走	1	2分23秒0	前田 十郎
		2	2"25"0"	倉敷 秀雄
		3	2"28"0"	官原 武男
14	縄登旗取競走	1	39"0	高松 正信
		2	40"0	井狩 二郎
15	サツク競走	1	1分00"0	高橋 陸郎
16	障害物競走	1	1"17"0"	高橋 正夫
17	優勝者競走 (四分ノ一英里)	1	59"0	朝倉 金彦
18	各小学校生徒競走(200碼)	1	尋常科 50"0	大島 賢蔵 (創成)
		2	" 51"0	最上 浩 (")
		3	高等科 27"0	坪谷 洋作 (")
19	各学校四分ノ一英里競走	1	58"9	岩橋 重人 (師範)
		2	59"5	磯野 直球 (師範)
		3	59"7	祖父江泰助 (北中)
20	米賽競走	1	25"0	桑原 燕栄
21	平下駄競走	1	59"0	斎藤徳太郎
22	職員競走	1	59"0	遠藤 教授
			4位	空部教授
23	各科選手競走	1	58"9	野田 実 (本科)
24	見物人競走	1	2分20"0	東松 盛司
		2	ハンデ 25碼	朝倉 金彦
		3	5分35秒0	吉原 等
		4	5"36"0"	栗林 始
		5	5"37"0"	村上雄之助
		5	5"66"0"	米田繁次郎
25	一英里競走	1	5"53"0"	朝倉 金彦
		2	5"57"0"	吉原 等
		3	5"36"0"	栗林 始
		4	5"37"0"	村上雄之助
		5	5"66"0"	米田繁次郎

表14 第26回遊戯会成績一覧 (明41.5.14)

競技 順序	競 技 名	順位	記 録	姓 名
1	疾走幅飛	1	1丈4尺6寸	谷村 進 (林)
		2	ハンデ 5寸	小野寺新一 (予)
		3	1丈4尺2寸	
2	二人三脚	1	15秒0	岡崎忠三郎
				伝川 精二 (水)
3	二百碼競走	1	25"0	立花 繁 (予)
		2	ハンデ 26"6	朝倉 金彦 (大)
		3	27"0	米田繁次郎 (予)
4	サツク競走	1	35"0	山内政五郎 (農)
5	疾走高飛	1	5尺00寸	野村 竜吉 (予)
		2	4"8"	茂木孝太郎 (工)
6	ハ装四分ノ一英里競走	1	1分43秒0	稲田 豊 (農)
7	樽転し競走	1	56"2	亀山 樹次 (農)
8	棒高飛	1	ハンデ 5寸	稲田 豊 (農)
			7尺5寸	
9	食菓競走	1	47秒0	島田 道義 (実)

教育学部紀要 第17号

10	四分ノ一英里競走	1	1分06秒0	茂木孝太郎 (工)
		2	1分06秒5	前川 十郎 (予)
		3	1分07秒0	野田 実 (大)
11	鉄槌抛	1	61尺4寸	山内政五郎 (農)
		2	55尺2寸	伝川 精二 (水)
12	百碼競走	1	13秒0	立花 繁 (予)
		2	13秒1	古賀 義 (工)
		3	13秒6	志田 順作 (工)
13	芋拾競走	1	1分21秒0	鮫子 孝作 (予)
14	戴囊競走	1	1分14秒0	野村 竜吉 (予)
1b	1分間競走	1	記録無	菅井 博愛 (農)
		2	記録無	副島昌 (大)
16	異装百出競走	1	1分11秒0	豊田 貢 (水)
		2	2分32秒2	阿妻 忠精 (水)
17	半英里競走	1	2分35秒5	松尾 修一 (予)
		2	2分37秒0	吉益 公道 (工)
18	依競走	1	56秒0	吉原 七司 (水)
19	小家畜競走	1	1分30秒0	坂倉 勝則 (予)
21	平下駄競走	1	1分03秒0	上野 鉄男 (農)
22	障害物競走	1	2分09秒0	栗林 始 (工)
25	留學生競走	1	13秒0	干 樹楓 (清国)
24	優勝者競走	1	1分06秒0	鮫子 孝作 (予)
25	区内小学校選手競走	1	尋常科 50秒0	今村春吉 (北9条)
		1	高等科 32秒0	長谷川州一 (創成)
26	中学選手競走	1	1分30秒0	永井藤二郎 (上川)
		2	1分31秒0	川岡林久栄 (上川)
27	精實競走	1	25秒	伊沢 豊久 (予)
28	職員競走	1		森本 先生 (予)
29	各科選手競走	1	1分32秒0	立花 繁 (予)
		2	5分48秒0	阿妻 忠精 (水)
		3	5分58秒0	野田 実 (大)
		4	6分02秒0	朝倉 金彦 (大)
		5	6分03秒0	松尾 周一 (予)
		6	6分05秒0	吉見 貞次 (予)
30	一英里競走	1	5分48秒0	阿妻 忠精 (水)
		2	5分58秒0	野田 実 (大)
		3	6分02秒0	朝倉 金彦 (大)
		4	6分03秒0	松尾 周一 (予)
		5	6分05秒0	吉見 貞次 (予)

表15 第27回遊戯会成績一覧 (明42.5.11)

競技 順序	競 技 名	順位	記 録	姓 名
1	疾走幅飛	1	16尺3寸	宮部 憲次 (予)
		2	15尺7寸	小野沢新一 (予)
		3	14尺2寸	小野寺二郎 (予)
2	二人三脚	1	15秒0	朝倉 金彦 (大)
		2	26秒1	甲斐喜八郎 (水)
3	二百碼競走	1	27秒0	朝倉 金彦 (大)
		2	27秒1	足立 仁 (予)
4	サツク競走	1	35秒5	高橋 陸郎 (水)
5	疾走高飛	1	5尺3寸	松野 忠雄 (予)
		2	5尺3寸	野村 竜吉 (予)
6	依競走	1	55秒0	柳井 豊彦 (予)
7	平下駄競走	1	32秒0	高橋 陸郎 (水)
8	棒高飛	1	9尺0寸	萩原鶴二郎 (水)
		2	8尺0寸	藤井 知之 (予)
9	食菓競走	1	56秒0	石井 忠美 (予)
10	四分ノ一英里競走	1	1分04秒0	野口 実 (予)
		2	1分07秒0	鮫子 孝作 (予)
		3	1分07秒1	吉見 貞次 (予)
11	鉄槌抛	1	47尺2寸	本泉里三郎 (予)
		2	44尺3寸	児玉 誠 (予)
12	半英里競走	1	2分30秒0	阿妻 忠精 (水)
		2	2分36秒0	安藤 克治 (予)
		3	2分37秒0	佐藤 利一 (予)
13	芋拾競走	1	1分37秒0	茂木孝太郎 (工)
14	戴囊提「競走	1	1分18秒0	野村 竜吉 (予)
15	一分間競走	1	419碼0	野田 実 (予)
		2	414秒7	阿妻 忠精 (水)
		3	414秒3	柳井 豊彦 (予)
16	丘装四分ノ一英里競走	1	1分13秒0	浮谷升二郎 (予)
17	百碼競走	1	12秒0	立花 実 (予)
		2	12秒1	米田繁太郎 (予)
		3	12秒3	宮部 憲次 (予)
18	農装競走 (新案)	1	4分46秒0	浮谷升二郎 (予)
19	アツプル競走 (新案)	1	37秒0	奈良岡忠司 (予)
		2	39秒0	森沢 栄徳 (予)
番外	各校消防夫競走	1	2分15秒0	小原橋 (予)
		2	2分26秒0	滝沢 (予)
20	布引競走 (新案)	1	1分13秒6	岡崎 鹿衛 (予)
21	圍板競走 (新案)	1	25秒5	松林理三郎 (予)
23	障害物競走	1	2分24秒0	丹治 七郎 (予)
24	飛繩四分ノ一英里競走 (新案)	1	1分24秒0	茂木孝太郎 (工)
		2	1分32秒0	小野沢新一 (予)
25	運動対部競走 (新案)	1	3分03秒0	宮部 憲次 (予)
27	優勝者競走	1	1分08秒0	野田 実 (予)

28	小学校選手競走		記録なし	
29	中学程度各学校選手競走	1	1分32秒0	佐々木政清 (樽水)
		2	1分34秒0	相川 定栄 (札中)
		3	1分34秒1	澤山 寛 (師範)
31	米責競走	1	1分05秒0	千藤 正二 (予)
32	各科選手競走	1	1分52秒0	立花 繁 (予)
		2	5分48秒0	安齋 克二 (水)
		3	5分48秒1	三浦金太夫 (水)
		4	5分52秒0	阿妻 忠精 (水)
		5	5分55秒0	中沢 真三 (予)
		6	5分57秒0	吉野徳一郎 (予)
33	一英里競走	1	5分48秒0	安齋 克二 (水)
		2	5分48秒1	三浦金太夫 (水)
		3	5分52秒0	阿妻 忠精 (水)
		4	5分55秒0	中沢 真三 (予)
		5	5分57秒0	吉野徳一郎 (予)

表17 第28回遊戯会成績一覧 (明43.5.7)

競技 順序	競 技 名	順位	記 録	姓 名
1	疾走幅飛	1	17尺0寸	江頭権六郎 (水)
		2	16尺5寸	稲田 昌植 (予)
2	二人三脚	1	10秒2/6	宮部 憲次 (予)
		2	15秒0	坂倉 勝則 (予)
3	二百碼競走	1	27秒0	立花 繁 (予)
		2	28秒0	松本 義一 (予)
		3	28秒1/5	甲斐喜八郎 (水)
4	サツク競走	1	26秒4/5	加沢増之助 (水)
5	疾走高飛	1	5尺7寸	高橋 周平 (水)
		2	5尺6寸	野村 竜吉 (予)
6	依競走	1	36秒4/5	柳井 豊彦 (予)
7	農装競走	1	2分28秒0	奈良部都義 (予)
8	棒高飛	1	10尺0寸	藤井 知之 (水)
		2	ハンデ一5寸	萩原鶴二郎 (林)
9	食菓競走	1	44秒0	奈良岡忠司 (予)
10	四分ノ一英里競走	1	1分08秒0	立花 繁 (予)
		2	1分08秒3/5	松本 義一 (予)
		3	1分09秒1/2	吉妻 忠精 (水)
11	鉄槌抛	1	54尺7寸	村井 頼道 (水)
		2	50尺6寸	森沢 博 (大)
12	半英里競走	1	2分35秒2/5	中沢 真三 (水)
		2	2分35秒4/5	吉妻 忠精 (水)
		3	2分31秒0	三浦金太夫 (水)
13	芋拾競走	1	46秒0	鮫子 孝作 (大)
		2	47秒0	稲田 昌植 (予)
14	戴囊提「競走	1	1分17秒0	丸山 金夫 (工)
15	一分間競走	1	439碼	足立 二郎 (予)
		2	426秒	吉妻 忠精 (水)
16	丘装四分ノ一英里競走	1	2分05秒0	藤田 省吾 (予)
17	百碼競走	1	11秒15	甲斐喜八郎 (水)
		2	12秒0	立花 繁 (予)
		3	12秒3	鮫子 孝作 (大)
	余 興	1等	12秒1/5	カミキリムシ
		2等	13秒0	イモムシ
		3等	13秒0	ワタムシ
18	アツプル競走	1	39秒0	奈良岡忠司 (予)
		2	42秒0	沢田三三郎 (水)
19	軽気球競走 (新案)	1	20秒0	前森 永貞 (予)
		2	31秒3/5	野村 錦輔 (水)
20	密柑箱競走 (新案)	1	1分13秒0	野村 錦輔 (水)
		2	1分46秒0	前森 永貞 (予)
21	足絨競走 (新案)	1	21秒4/5	堀江 秀雄 (工)
		2	25秒0	今村 義郎 (工)
22	障害物競走	1	2分00秒0	武藤 守明 (工)
		2	2分00秒1/2	坂倉 忠雄 (水)
23	飛繩四分ノ一英里競走	1	1分30秒0	儀口 丹作 (水)
		2	1分35秒1/2	武藤 守明 (工)
24	運動部対部競走	1等	2分03秒0	庭球部 足立 仁郎 (予)
				安齋 克二 (予)
26	優勝者競走	1	1分04秒4/5	足立 二郎 (予)
27	区内小学校選手競走	1	200碼	小林 安部 (北九条)
		2	32秒0	安部 (北九条)
		3	32秒1/2	安部 (北九条)
		4	高等科400碼	吉田 (西創成)
		5	1分08秒0	本間 (北九条)
		6	1分14秒0	本間 (北九条)
28	中学校選手競走	1	1分33秒4/5	佐々木政清 (小樽水)
		2	1分34秒0	安田 勘助 (師範)
		3	1分35秒0	浅井 直利 (空農)
31	各科選手競走	1	1分55秒3/5	立花 繁 (予科)
		2	5分48秒1/5	中沢 真三 (水)
		3	5分49秒0	吉妻 忠精 (水)
		4	5分50秒0	甲斐喜八郎 (水)
		5	5分51秒0	佐藤 幹 (実)
		6	ハンデ一	安齋 克二 (実)

教育学部紀要 第17号

- 〔資料14〕 恵迪寮史, P. 262
 - 〔資料15〕 文武会紹介, 昭11.5月発行
 - 〔資料16〕 蕙林は19号までで終刊となり, 文武会誌は20号から始まっている。
 - 〔資料17〕 恵迪寮史, P. 264, 部報1, P. 87
 - 〔資料18〕 蕙林9号, 明治27.1.1発行, P. 34
 - 〔資料19〕 恵迪寮史, P. 267
 - 〔資料20〕 蕙林10号, 明治27.3.15発行, P. 10
 - 〔資料21〕 第15回遊戯会報告, 全39頁, 仮名書印刷資料(北大図書館)
 - 〔資料22〕 第16回遊戯会報告, P. (同上)
 - 〔資料23〕 遊戯会記録, 19枚目
 - 〔資料24〕 同上, 21枚目
 - 〔資料25〕 札幌農学校一覧, P. 108
 - 〔資料28〕 北海道大学卒業生名簿(昭35発行) P. 315
 - 〔資料27〕 北海道帝国大学陸上競技部報1, P. 2
 - 〔資料28〕 遊戯会記録, 22, 23枚目
 - 〔資料29〕 遊戯会記録, 28枚目, 第18回遊戯会
 - 〔資料30〕 同上, 33枚目, 第19回遊戯会
 - 〔資料31〕 創立25年祝賀会報告——北方文化研究室資料——P. 23
 - 〔資料32〕 遊戯会記録, 52枚目, 第23回遊戯会
 - 〔資料33〕 同上, 53枚目, 第23回遊戯会
 - 〔資料34〕 同上, 58枚目, 第23回遊戯会
 - 〔資料35〕 同上, 64枚目, 第24回遊戯会
 - 〔資料36〕 同上, 70枚目, 第24回遊戯会
 - 〔資料37〕 同上, 83枚目, 第24回遊戯会
 - 〔資料38〕 同上, 99枚目, 第27回遊戯会
 - 〔資料38〕 同上, 99枚目, 第27回遊戯会
 - 〔資料39〕 北大陸上競技部報, 1号, P. 134
 - 〔資料40〕 同上 P. 97
 - 〔資料41〕 遊戯会記録, 第19回遊戯会報告
 - 〔資料42〕 文部会報第60号, P. 75
 - 〔資料43〕 部報1, P. 109
- 付, 札幌農学校明治28年以後の沿革年表
- △ 明治29年(1896) 兵学科廃止される。
 - △ 明治31年(1898) 学芸会「札幌農学校」刊行
 - △ 明治34年9月21日
学芸会遊戯会合して文武会と称し発会式を挙ぐ, 「学芸会雑誌」を「文武会雑誌」と改む。
 - △ 明治39年11月
演武場を札幌区に売却する。
 - △ 明治40年6月22日
札幌農学校は東北帝国大学農科大学となる
 - △ 大正7年4月1日
北海道帝国大学を置く。農科大学はその一分科となる。佐藤昌介総長となる。